

# がん医療と

# 新しい時代の幕開け!

## 第4回

西日本豪雨災害・北海道胆振東部地震・熊本地震復興支援

# がん撲滅サミット®

<http://cancer-zero.com>

参加無料(要事前予約)

## 平成30年11月18日(日)

開場 12:30

開演 13:00

会場

東京ビッグサイト

国際会議場

主催 | 第4回がん撲滅サミット実行委員会 / 公益財団法人 がん研究会有明病院

共催 | 公益財団法人 がん集学的治療研究財団 / 公益財団法人 広島がんセミナー  
公益財団法人 札幌がんセミナー

協力 | 社会医療法人 厚生会 木沢記念病院

協賛 | ライオンズクラブ国際協会、東レ株式会社、伊藤忠商事株式会社、大鵬薬品工業株式会社、小野薬品工業株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、オリンパス株式会社、日本航空株式会社、ダイダン株式会社、株式会社エフ・アール・シー・ジャパン、未来トラストホールディングス株式会社、TOTO株式会社、ALSOK総合警備保障株式会社、株式会社オキ・コーポレーション、TH総合法律事務所、株式会社重岡、岡山県極真空手道連盟、医療法人羅寿久会浅木病院 ほか (順不同)

後援 | 厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、農林水産省、日本医療研究開発機構、東京都、公益社団法人 日本医師会、公益財団法人 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団、一般社団法人 日本経済団体連合会、日本商工会議所、公益社団法人 経済同友会、日本製薬団体連合会、一般社団法人 日本建設業連合会、一般社団法人 不動産協会、一般社団法人 生命保険協会、一般社団法人 日本損害保険協会、全国警備業協会、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN、アライアンス・フォーラム財団、読売新聞社 (順不同)

# 高円宮妃殿下お言葉

本日は第1回がん撲滅サミットが盛大に開催され、皆様とご一緒できますことを大変うれしく思います。

日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなると言われており、あらゆる病気の中で最も死亡率が高いとうかがっております。1981年より日本人の死因第1位を占めており、国民病ともいえるかもしれません。がんは全身のあらゆる部位で発症いたしますし、初期には自覚症状がないため、今でも発見されたときにはすでに進行していて、治療が遅れるケースが多くあります。しかし、早期発見により、完全に治療、治癒することも可能な病です。

医学とがんの闘いは実に長い歴史を持っており、がんの最初の記録は紀元前1500年ごろの古代エジプトの医学書にあります。そして紀元前1400年ごろ、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスががんを蟹（かに）を意味するカルキノスという名前をあてがえました。その数百年後に医学論を書いた学者のアウルス・コリネリウス・ケルススがカルキノスをキャンサーとラテン語に訳したのです。英語では今でもがんのことをキャンサーと呼びますが、発がん物質を意味するカルシノシンはヒポクラテスのカルキノスが語源です。

これだけ長く闘っているのですから、がんは医学にとって永遠のテーマであり、人類は終わりなき闘いを繰り広げていく運命にあるのかもしれません。進化医学の出番も増えるのかもしれません。

いずれにしろ何事においても、攻めなければ負けしかない中、がん撲滅を目指すぐらいの意気込みが必須と感じます。お身内ががん患者がいらっしゃる作家でジャーナリストの中見利男氏の「オールジャパンでがん撲滅に立ち上がろう」という呼びかけに、医学医療のみならずあらゆる分野の方が賛同されたことによって、ここに新たな挑戦が始まるのを心強く思っております。同じ志を持った多くの人間が同じ方向に動けば、大きなエネルギーが生まれます。掲げておられる目標の中でも、特にがん最先端医療において個々の患者、治療へ直結する医療のベストミックスを早急に創り上げていくことは重要であり、医師力を増進するのは当然として、患者力の向上を目指すのは実に意義深いことと考えます。

がんに関する先端医療や名医に関する情報を発信することや、患者主体の治療が出来る社会を再構築すること、患者や家族が的確な決断の出来る医療社会を再構築することなど、患者とその家族の立場に立って考えるのは日本の医療の本質ではないでしょうか。

インターネットを駆使したシステムや遠隔医療、遠隔治療などを含む医療は、日本のみならず医療の十分ではない国や地域に希望の光となることでしょう。その昔、医学においては視野を広く持つことが普通でしたが、研究がめざましく進み、医学が進歩した今日では分野ごとに孤立してしまっています。人間は社会的な動物であり、優れたコミュニケーション能力を有していますので、新しい時代の医療には皆がアクセスできる引き出しの多い総合的に意見交換が速やかにできる環境が整備されることを期待しております。

本日のがん撲滅サミットが学術的に実りと発展性のある大会となりますよう、またがんの撲滅、及びがん偏見の撲滅に一日でも早くつながりますよう心より願って開会式に向ける言葉と致します。

(2015年6月9日開催の第1回がん撲滅サミットにご来臨を賜りました)

## 第4回がん撲滅サミット

## PROGRAM

- 12:30 開場 東京ビッグサイト 国際会議場
- 12:50～13:00 西日本豪雨災害チャリティー贈呈式  
医療法人和陽会まび記念病院 理事長 村上 和春 氏
- 13:00～13:30 来賓ご挨拶並びにご紹介
- 13:30～13:50 大会長講演「がん撲滅に向けた新しい時代の幕開け」  
第4回がん撲滅サミット 大会長  
公益財団法人がん集学的治療研究財団 前理事長、岐阜大学 名誉教授  
社会医療法人厚生会 木沢記念病院 顧問 佐治 重豊 氏

### がん撲滅への戦略講演

- 13:50～14:05 「がん撲滅に向けた日本政府の挑戦」  
内閣総理大臣補佐官 内閣官房健康・医療戦略室室長 和泉 洋人 氏
- 14:05～14:20 「がん対策加速化への道 2018」 厚生労働省 医務技監 鈴木 康裕 氏
- 14:20～14:40 「がん撲滅に向けた早期診断及びゲノム解読・編集技術の現状と課題」  
国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 中釜 斉 氏
- 14:40～14:50 〈休憩〉

### がん撲滅への戦術講演

- 14:50～15:10 「がん予防と先端治療最前線」  
公益財団法人がん研究会有明病院 名誉院長 山口 俊晴 氏
- 15:10～15:30 「NCI（米国国立がん研究所）が最高評価する日本のWT1最前線」  
大阪大学大学院 医学系研究科 特任教授 杉山 治夫 氏
- 15:30～15:55 「日本よ、目を覚ませ！  
世界が競うAIホスピタルとプレジジョンメディシンの最前線とは」  
公益財団法人がん研究会プレジジョン医療研究センター長  
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター シカゴ大学 名誉教授 東京大学名誉教授  
中村 祐輔 氏

### 医療スペシャル講演

- 15:55～16:20 「Muse細胞の発見と医療ルネッサンスへの挑戦！」  
東北大学大学院 医学系研究科 細胞組織学分野 教授 出澤 真理 氏
- 16:20～16:30 休憩（会場設営準備）

# がん撲滅サミット

## PROGRAM

16:30 ~ 18:00 公開セカンドオピニオン～がんと闘い方教えます Q&A～

- **大津 敦氏** (光免疫療法・SCRUM-JAPAN [スクラムジャパン] プロジェクト統括)  
国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 病院長
- **大野 真司氏** (乳がん) 公益財団法人 がん研究会有明病院 副院長、乳腺センター長
- **上野 雅資氏** (大腸がん) 公益財団法人 がん研究会有明病院 大腸外科部長
- **米瀬 淳二氏** (膀胱がん、腎臓がん、前立腺がん) 公益財団法人 がん研究会有明病院 院長補佐、泌尿器科部長
- **古瀬 純司氏** (腫瘍内科・抗がん剤) 杏林大学 医学部内科学腫瘍内科 教授、杏林大学病院がんセンター長
- **副島 研造氏** (呼吸器) 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター 副センター長  
トランスレーショナルリサーチ部門長 教授
- **太田恵一朗氏** (食道・胃外科) 日本医科大学 消化器外科 教授
- **鎌田 正氏** (重粒子線) 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 臨床研究クラスタ長  
放射線医学総合研究所病院 病院長
- **佐野 圭二氏** (肝胆膵外科) 帝京大学 医学部外科学講座 教授
- **清松 知充氏** (大腸腹膜播腫ほか) 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 下部消化管外科 診療科長
- **岡田 直美氏** (重粒子線及び集学的治療) 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院 客員研究員  
ほか
- **古賀 良彦氏** (心と香りのブレインヘルス) 杏林大学 名誉教授
- **大澤 岳史氏** (緩和ケア・在宅医療) 帝京大学 医学部 緩和医療学講座緩和医療専門医・講師

### スペシャルゲスト

- 中村 祐輔氏** (公益財団法人 がん研究会有明病院プレジジョン医療研究センター長、  
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター、シカゴ大学名誉教授、東京大学名誉教授)
- 杉山 治夫氏** (大阪大学大学院 医学系研究科 特任教授)
- 出澤 真理氏** (東北大学大学院 医学系研究科 細胞組織学分野 教授)

司会：中見 利男氏 (第4回がん撲滅サミット代表顧問、提唱者) 作家・ジャーナリスト

17:50 閉会の辞 「東京宣言 2018」

第4回がん撲滅サミット大会長 佐治 重豊氏

エンディング

# 第4回がん撲滅サミット開会式

## ご来賓ご紹介

内閣総理大臣	<b>安倍 晋三 様</b>	
(メッセージ代読：大会長 佐治重豊 様)		
厚生労働大臣	<b>根本 匠 様</b>	
元 厚生労働大臣	<b>坂口 力 様</b>	
内閣官房政策参与、元厚生労働事務次官 第4回がん撲滅サミット 特別顧問	<b>二川 一男 様</b>	
内閣府参与、アライアンス・フォーラム財団 代表理事	<b>原 丈人 様</b>	(ビデオメッセージ)
一般社団法人 経済団体連合会 常務理事	<b>藤原 清明 様</b>	
一般社団法人 日本生活習慣病予防協会 名誉会長 タニタコア技術研究所 名誉所長	<b>池田 義雄 様</b>	
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長	<b>清水 美博 様</b>	
前大会長、公益財団法人 がん研究会有明病院 メディカルディレクター・名誉院長	<b>武藤徹一郎 様</b>	
公益財団法人 がん研究会有明病院 名誉院長	<b>山口 俊晴 様</b>	
公益財団法人 がん研究会プレジジョン医療研究センター長 内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授	<b>中村 祐輔 様</b>	
公益財団法人 日本対がん協会 会長	<b>垣添 忠生 様</b>	
国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長 山形大学医学部 参与	<b>嘉山 孝正 様</b>	
国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長	<b>中釜 齐 様</b>	
医療法人 和陽会 まび記念病院 理事長	<b>村上 和春 様</b>	
すい臓がんサバイバー	<b>高村 僚 様</b>	
アジア臨床腫瘍学会 名誉会長 公益財団法人 がん集学的治療研究財団 前理事長 岐阜大学 名誉教授、社会医療法人 厚生会木沢記念病院 顧問	<b>佐治 重豊 氏</b>	大会長
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長	<b>國土 典宏 氏</b>	大会副会長

<順不同>

## がん撲滅サミット

### 大会長 挨拶



### 佐治 重豊

第4回がん撲滅サミット 大会長  
アジア臨床腫瘍学会 名誉会長  
公益財団法人 がん集学的治療研究財団 前理事長  
岐阜大学 名誉教授  
社会医療法人 厚生会 木沢記念病院 顧問

この度、第4回がん撲滅サミットの開催にあたりご支援、ご来場いただき誠にありがとうございます。

人類はこれまで約4,000年近くがんと闘って参りましたが、何度も打ちのめされ続けてきたことは否定困難な事実です。

しかし、ここ50年近くになって、「がんは克服できる」ものだという認識が生まれ、今や第4の治療と呼ばれる免疫療法の登場と、これらのベストミックスによってがんを克服しようという集学的治療の手法が進化・発展し、人類はいよいよ「がん撲滅」への扉に手をかけるところまで辿り着けたと考えています。今後はゲノム医療やAIの導入、免疫チェックポイント阻害剤の普及、光免疫療法やウイルス療法のような新しい治療法の登場と従来の外科療法での Conversion Surgery や放射線治療での粒子線治療等の改革で、人類とがんとの闘いはいよいよ最終局面に突入できる可能性と予感が溢れてきました。

同時に、患者としても、がんに対する正しい知識を持ち、これらに的確に対応する戦略的思考を持ち合わせなければならないのも大切な事実であります。

そのためにも医療者は、患者に対して愛情を以て寄り添う態度、自分の専門外の知識でも患者の皆さんに提供する機会を決して奪ってはなりません。厚生労働省の見解がそうであるように、むしろ、現行のエビデンスを堅持しつつ、次世代型の標準治療を生み出すことも、国や医療者の当然の責務になります。

おかげ様で本日、東京ビッグサイトにて『第4回がん撲滅サミット』を開催させていただくことができました。

最初に、西日本豪雨被災地へのチャリティー贈呈式、ご来賓のご祝辞ののち、私の大会長講演、そして政府からは内閣総理大臣補佐官 和泉洋人先生、厚生労働省医務技監 鈴木康裕先生、そして国立がん研究センター理事長 中釜斉先生、さらに、WT 1ペプチドがんワクチンの開発者である杉山治夫先生（大阪大学大学院医学系研究科 特任教授）、7月から日本に凱旋帰国され、世界規模で益々活躍されている中村祐輔先生（公益財団法人がん研究会プレジジョン医療研究センター長、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター）にご講演をいただきます。

また、医療スペシャル講演として出澤真理先生（東北大学大学院医学系研究科 細胞組織学分野 教授）には、今世界で注目を浴びている Muse 細胞の発見者として、発見に至るエピソードや画期的な改革が期待されている Muse 細胞の将来像等を語っていただきます。

そして、がん撲滅サミットの目玉企画となりました公開セカンドオピニオンを今年も引き続き開催致します。日本が世界に誇る気鋭の先生方とご来場者の皆様との間で白熱したコラボレーションができますことを期待しています。

最後に『東京宣言 2018』公表ののち閉会となります。ご来場の皆様に実りあるお時間を過ごして頂き、ご満足頂けますよう万全の準備を進めて参りました。最後まで楽しみながらお過ごし頂けますと幸いです。



### 安倍 晋三

内閣総理大臣

第4回がん撲滅サミットの開催、おめでとうございます。

はじめに、医学の進歩に向けた皆様の毎日の取組に対して、心より敬意の念を表したいと思います。特に、本年のノーベル生理学・医学賞を本庶 佑京都大学特別教授が受賞されました。我が国として非常に誇りであると同時に、多くのがん患者の皆さんに希望や光を与え、人類全体への貢献につながる素晴らしい成果をあげられたと思います。

我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成し、人類誰もが願う長寿社会を現実のものとしてまいりました。他方で、人生100年時代を見据え、健康な状態で長生きしていただく、健康長寿社会を実現することが大きな課題となっています。

このため、政府としても、全閣僚からなる健康・医療戦略推進本部の下、医療分野の先端的研究開発や新産業創出等を推進し、健康寿命の更なる延伸の実現に向けた取組を進めています。

中でも長らく死因の首位を占めてきたがんについては、その克服を目指して注力していく必要があります。このため、本年3月に新たながん対策推進基本計画を決定し、①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実、②患者本位のがん医療の実現、③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築、を目標に掲げ取組を進めていくこととしました。

がん予防・検診については、引き続き、受動喫煙対策の徹底や受診率の向上に向けた取組をさらに進めていくとともに、より効果を高めるため、保険者・事業者・個人の予防措置へのインセンティブの強化を検討してまいります。

また、がん医療については、近年、個々人に最適化された患者本位のがん医療として「がんゲノム医療」が注目されています。政府としても、がんゲノム医療の中核となる拠点病院の整備に加え、関係者が参画する「がんゲノム医療推進コンソーシアム」の構築などを通じて、思春期や若年世代を含むそれぞれのがん患者の特性に応じた医療の提供に取り組んでいます。

さらに、治療と仕事の両立支援を進めるため、企業の意識改革や両立を可能とする社内制度の整備促進や企業、医療機関とそれらと連携するコーディネーターによるトライアングル型のサポート体制の構築など、がんになっても自分らしく生きることのできる地域共生社会の実現を目指してまいります。

これらの施策により、いつ、どこにいても安心して納得できる医療や支援を受けられるよう引き続き取り組み、ひいてはがんを克服し、活力ある健康長寿社会を形成していきたいと考えています。

最後に第4回を迎えた本会合がご参加の皆様にとって実り多きものとなることを期待いたしまして私のメッセージといたします。

## がん撲滅サミット

### 内閣官房長官 メッセージ

---



#### 菅 義偉

内閣官房長官

第4回がん撲滅サミットの開催を心よりお慶び申し上げます。はじめに、医学の進歩に向け、日々、がん治療、がん研究に取り組んでおられる関係者の皆様の取組に対して心より敬意を表します。

我が国から、画期的ながん免疫療法の研究成果が生み出され、本庶佑京都大学特別教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されることを大変喜ばしく思います。

がんは、昭和56年より死因の第1位であり、平成29年には、年間約37万人が亡くなり、生涯のうちに、約2人に1人が罹患し、3人に1人ががんで亡くなっているなど、依然として国民の生命と健康にとって重大な問題であります。

こうした状況を踏まえ、政府をあげてがん撲滅に向けた取組を積極的に推進すべく、本年3月に閣議決定した、第3期がん対策推進基本計画を基に、がん検診受診率の向上、がんゲノム治療の推進、治療と仕事の両立支援などに取り組んでいます。

また、研究開発分野については、「健康・医療戦略」に即して策定している「医療分野研究開発推進計画」において、基礎研究から実用化へ一貫して繋ぐ重点プロジェクトの一つの柱として、がん研究を位置付けており、30年度は160億円の研究費を運用しています。

具体的には、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）を中心に、文部科学省、厚生労働省、経済産業省の三省と連携して研究開発を推進しており、血液検査による腎臓がん早期診断法の開発、微小ながんの検出技術の開発など、研究の成果が着実に見られているところです。

今後も、がん研究をはじめとして、健康長寿社会実現に向けた多くの施策を通じ、国民が健康で安心して暮らせる社会、医療体制を構築すべく努めていきたいと考えています。



### 根本 匠

厚生労働大臣

「第4回がん撲滅サミット」の開催、誠におめでとうございます。患者やご家族の皆様を始め、医療従事者や医学研究者及び各業界における企業の方々等がお集まりになり、本サミットが盛大に開催されることは素晴らしいことです。開催に御尽力された関係者の皆様に、深く敬意を表します。

本サミットにつきましては、第1回から、復興大臣等の立場で挨拶して参りましたが、今回は、がん対策を推進する厚生労働大臣として挨拶いたします。

我が国において、がんは、昭和56（1981）年から死因の第1位であり、生涯のうちに国民の約2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで亡くなっているなど、依然として、国民の生命と健康にとって重大な問題です。

このような状況を踏まえ、厚生労働省では、がん対策のより一層の推進を図るため、本年3月に「第3期がん対策推進基本計画」を閣議決定したところです。今回の計画では、「がん予防」、「がん医療の充実」、「がんとの共生」の3本柱と、これらを支える基盤として「がん研究」、「人材育成」、「がん教育と普及啓発」を掲げております。

特に、がんゲノム医療提供体制の整備を図るため、がんゲノム医療中核拠点病院及びがんゲノム情報管理センター等を整備しています。また、がん患者の就労支援の推進を図るため、患者の状況に応じた治療と仕事両立プランを活用したトライアングル型サポート体制の構築を進めています。引き続き、質の高いがん医療の提供に向けた取組を推進して参ります。

本サミットにおいても「がん医療と新しい時代の幕開け！」がスローガンとなっておりますが、本庶佑先生が、本年10月にノーベル生理学・医学賞を受賞されました。受賞に心よりお喜びを申し上げますとともに、今回の受賞を契機として、がん撲滅に向けたがん医療の新たな発展に期待いたします。

最後に、本サミットの成功と本日お集まりの皆様方の今後ますますの御発展、御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## がん撲滅サミット

### 内閣府参与 メッセージ



はら じょうじ  
原 丈人

内閣府参与

アライアンス・フォーラム財団 代表理事

“天寿を全うする直前まで健康でいられる社会を実現する。”

これは、私の理念であり、2050年までに我が国がこれを実現する世界最初の国にしたいと考えています。これを実現するには「技術イノベーション」「制度イノベーション」「エコシステム」といった3つの要素が必要だと考えています。

技術イノベーションとは、まさに「事故や大病に襲われた人々を治療するテクノロジーの開発」そのものです。交通事故で車椅子の生活を余儀なくされている人が再び立って歩けるようになる。重度の心臓疾患で心臓移植を待ち望んでいる人が階段を上り、走れるようになる。がん罹患しても完治して再び健康な生活を取り戻す。革新的な技術開発によって、そのような世界を創ることができる。人はそれぞれ皆固有の寿命があり、伸ばすことは難しいでしょうが、革新的技術開発によって天寿を全うする直前まで元気で活躍できるような社会はできます。

つぎに、制度イノベーションですが、これは技術イノベーション以上に重要です。現在、世界の多くの国が米国食品医薬品局の定める新薬許認可の制度になっており、この制度で許可を得るには、10年以上の時間がかかると言われてしています。つまり数年の余命宣告を受けた患者は、薬を手になく最期を迎えてしまうのです。そのため、条件付きでも安全性が確立された場合には、1日でも早く患者に届くようにするのが望ましい。こうした制度改革が必要なのです。すでに日本では世界に先駆けて再生医療における条件付・期限付早期承認制度を実現しました。これに続く制度改革をがん治療の領域でも実現させたいと思っています。エコシステムは、技術イノベーションと制度イノベーションを持続させるために不可欠な仕組みです。私が主宰するワールド・アライアンス・フォーラム in サンフランシスコは、世界中の革新的技術を持つ研究者、ベンチャー経営者、企業関係者、政府関係者、産業団体等のポリシーメーカーが集結する会議であり、最先端の技術開発や必要な制度を議論し、提唱することで前述の制度改革につなげてきました。今後は、がん撲滅サミットとも協調し、がん領域における制度改革に着手したいと考えています。

技術・制度・エコシステムの創造によって、国連加盟国193カ国の中で、天寿を全うする直前まで健康でいられる世界最初の国にすることで、日本は世界からなくてはならない国になるのです。



### 小池 百合子

東京都知事

「がん撲滅」をテーマに立ち上げられたこのサミットが、4回目の開催を迎えられますことを、心よりお慶び申し上げます。

日々がん治療、がん研究に取り組んでいらっしゃる皆様に、心から敬意を表しますとともに、実行委員会や事務局の皆様をはじめ、開催に御尽力された関係者の皆様に感謝申し上げます。

がんは、昭和52年（1977年）以降、都民の死因の第1位であり、現在、都民のおよそ3人に1人が、がんで亡くなっています。今後、高齢化が加速する東京都では、がん患者の一層の増加が予測されております。

このため、都は本年3月に東京都がん対策推進計画（第二次改定）を策定し、「がん患者を含めた都民が、がんを知り、がんの克服を目指す」という全体目標の下、「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」、「患者本位のがん医療の実現」、「尊厳を持って安心して暮らせる地域共生社会の構築」の三つを目標に掲げました。

都民が、がんに関する理解を深め、がんの患者や経験者の方が、必要な支援を受けながら、罹患する前と変わらず自分らしい生活をおくることができるよう、都はこの計画に基づき、様々な施策を推進しております。がん患者の方の治療と仕事の両立に向けては、支援に積極的に取り組む事業主を支援する、難病・がん患者就業支援事業を昨年度スタートさせております。

こうした施策を展開するなど、関係者の皆様とともにがん対策を総合的に推進してまいります。

最後に、このサミットが、お集まりの皆様にとって実りのある場となりますとともに、がんと闘う患者と御家族の皆様の希望につながりますこと、また、皆様の今後の益々の御発展、御健勝を祈念いたしまして、私からのメッセージとさせていただきます。

## がん撲滅サミット

### 熊本県知事 メッセージ

---



#### 蒲島 郁夫

熊本県知事

本日、がん治療の更なる改善を目指し取り組まれている関係者の皆様のご尽力により、「第4回がん撲滅サミット」が盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。

また、このたび、がん撲滅サミット実行委員会から、熊本地震復興のため義援金をいただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。熊本県では被災された方々の住まいの再建を最重要課題と位置づけ、被災者お一人おひとりに寄り添いながら全力で支援にあたっております。いただきました義援金は、被災者の方々にしっかりとお届けいたします。

さて、がんは一生のうち約2人に1人の方がかかる病気と言われますが、私自身も早期の胃がんが見つかり、内視鏡手術を受けた経験があります。その後は健康状態に全く問題はありませんが、早期発見の重要性を再認識するとともに、今やがんは特別な病気ではないことを実感しました。

本県では、今年3月に策定した「第3次熊本県がん対策推進計画」の中で、「がん患者を含む県民が、がんを知り、がん向き合い、共に支え合う社会」を目指して、①がんを知りがんを予防する、②適切な医療を受けられる体制を充実させる、③がんになっても自分らしく生きることのできる社会を実現する、の3つを目標に掲げ、がん対策の推進に力を入れています。また、熊本地震での教訓を踏まえ、災害時の医療機関同士の情報共有の仕組みづくりなどにも取り組んでいます。

国においては、昨年、全体目標に「がん予防・がん検診の充実」などを盛り込んだ「第3期がん対策推進基本計画」が策定されました。

がん対策は、地方自治体も含めたオールジャパンで取り組む必要があります。本県でも、国の基本計画や、「第3次熊本県がん対策推進計画」に沿った取り組みをとおして、がん対策の充実を図ってまいります。

最後になりますが、本日のサミットが、お集まりのがん患者の皆様やそのご家族をはじめ、医療関係者などその支援者の皆様にとって、大きな“つながり”となり、がん撲滅への希望の光となりますよう、お祈り申し上げます。メッセージといたします。

## ライオンズクラブ国際協会 メッセージ



### 山田 實紘

ライオンズクラブ国際協会 第99代国際会長  
社会医療法人厚生会 木沢記念病院 理事長

第4回がん撲滅サミットの開催を心よりお慶び申し上げます。また、当サミット開催にご尽力された関係者の皆様に心より敬意を表します。

さて皆さん、ライオンズクラブをご存知ですか？「ライオンズ」と聞くと、「埼玉西武ライオンズ」や「ライオンズマンション」を思い浮かべる方も多いと思いますが、ライオンズクラブ国際協会は世界最大の人道的奉仕団体です。会員は141万人、210ヶ国にわたっており、これは国連の加盟国数を上回る規模であります。1917年にアメリカ合衆国で創設されて以来、世界中で幅広い活動を行っています。そして、奉仕を実施していくために資金支援を行うのがライオンズクラブ国際財団で、ライオンズの人道事業を支援し、奉仕を必要とする人々の生活改善に貢献しています。つまりライオンズクラブ国際協会とライオンズクラブ国際財団は車の両輪なのです。

私は脳神経外科医として臨床の現場に長く携わってまいりましたが、医師人生50年として生涯救える命は5千人から1万人程度だと思えます。一方、ライオンズクラブはどの奉仕団体よりも多くの場所で多くのボランティアが地域に根差した活動を行っており、年間で1億人もの人々に手を差し伸べることができるわけです。その中で救うことのできる命は何百万、何千万に及びます。私は2015-2016年度ライオンズクラブ国際会長、翌年には日本人としては初めてライオンズクラブ国際財団理事長を務めました。ライオンズクラブのトップとして、「命の尊厳と和 - Dignity. Harmony. Humanity.」をテーマに、世界各地を訪問し、ライオンズの活動を視察し、支援し、その輪を拡大してきましたが、医者冥利に尽きる活動であると実感しております。

今回ライオンズクラブ創立100周年を機に、今まで視力保護中心に行ってきた奉仕活動に変化をもたらすため、世界中のライオンズ会員に対して今後何に重点を置いて奉仕活動を行うべきかを問うアンケートを実施しました。その結果、小児がんへの関心が最も高かったため、今年度小児がん撲滅に向けた取り組みを本格的に開始しました。小児がんは治療効果が大変高く、早期に治療すれば80%程度は改善しますが、発見が遅かったり合併症が現れたりすると治療費もかさみ、不幸な結末になってしまうこともあります。我々は、子供の命を救うため、治療へのアクセスを拡大し、がんを抱える子供とその家族にも手を差し伸べ、尊厳のある生き方ができるよう取り組んでまいります。

ライオンズクラブの活動が、がん撲滅サミットの取り組みの一助となり、がんに向き合うすべての関係者の方の希望となることを祈念し、本日のサミット開催に協力させていただきましたことに感謝申し上げます、お祝いの言葉といたします。

## がん撲滅サミット

### 経済界代表 メッセージ

---



#### 岡藤 正広

伊藤忠商事株式会社 代表取締役会長 CEO

「第4回がん撲滅サミット」の開催を心よりお祝い申し上げます。また、がん撲滅に向け当サミット開催にご尽力されました関係者の皆様に心より敬意を表します。

伊藤忠商事では昨年7月に「がんと両立支援施策」を導入することを発表致しました。

きっかけとなったのは、がんが原因で昨年3月に亡くなられた社員が、生前、私宛に病床から下さった一通のメールでした。時折しも、あるメディアの報道で全国の企業を対象としたランキングで当社が「幸せな会社ランキング」第2位になったと云う報道を見てのメールでした。その中でその方は、それまで自分が会社から受けた支援や、先輩・同僚・後輩・仲間からの支えに感謝をするという内容と共に、「伊藤忠は日本で一番良い会社だ」と言ってくれました。大変残念ながら、その社員はメールを出されて程なくお亡くなりになってしまいました。私は御霊前で、その社員が残した言葉である「伊藤忠は日本で一番良い会社」、これを必ず実現し、この会社を立派で誇れる会社にしてみせると誓いました。

その後、当社の「がんと両立支援施策」には社内だけではなく、全国津々浦々の一般の方々からも大変多くの反響を頂きました。その中で、あるがん罹患者の方とお手紙をやり取りしたのですが、そこに書かれていた一文が非常に心を打つものでした。

「この施策の何が一番素晴らしいか。それは、がん患者、家族を孤独から救ってくれるところではないでしょうか」

当社社員に対する一企業の取組みではありましたが、これが社内だけではなく、ひょっとすると広く社会へも大きな影響を与えているのかも知れないと思ったのです。

今年度からは新たに「がんと仕事との両立を個人業績評価へ反映」することと致しました。この施策の意図するところは、「がんを患った社員には仕事と同じスピリットで闘病に臨んで欲しい」という思いがあります。日頃仕事で発揮している目標達成能力を闘病にも活かしていくことが、社員個人にとっても、目標達成を支援する組織にとっても最善の結果をもたらすものと考えたものです。がんに立ち向かうという事と、それを仕事とどう両立していくかを、それぞれの病気の状況に合わせて個人の目標として設定してもらい、会社はそれを業務と同様に全面支援するというものです。（※業績の目標なので、たとえがんになっても「あなたの居場所はここだ」と言うことはより明確です。）

社員が、がんなどの大きな病気にも負けることなく、安心して思う存分に働き続けられる環境と支援する体制を整えていくことは、病気になった社員自身のやる気・やり甲斐に繋がるというだけでなく、それを支える周囲の社員や組織の連帯と強化にも繋がり組織の活性化を生むものと考えています。

当社の取組みが日本のがん撲滅、がんと闘いながら働く方々の支援、そしてそうした取組みを進める企業の活性化に少しでも繋がるものであれば幸いです。

## 一般社団法人 日本医学会連合 会長 メッセージ



### 門田 守人

一般社団法人 日本医学会連合 会長  
堺市立総合医療センター 理事長  
公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク 理事長

この度、「第4回がん撲滅サミット」が平成30年11月18日、東京ビッグサイト国際会議場にて盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

本サミットは、医療者だけでなく政・財・官、そして患者の皆様、ご家族の皆様と共にオールジャパンでがん撲滅に向けて取り組むことを目的として開催されるものとお聞きしておりますが、このように全国民を挙げてがん撲滅に向かう姿勢は、現在のわが国のがん対策において最も重要なことであると信じております。

さて、わが国においてがん対策基本法が施行されたのは2007年のことで、既に10年以上のがん対策が実施されたこととなります。そして、第1期、第2期のがん対策推進基本計画が10年間行われたこととなります。

第1期基本計画では、「がん」に対する医療とがん患者の苦痛に対する医療が中心のがん対策であり、また第2期基本計画では、医療の枠を超えたがん患者の生活全体に対する対策の必要性が盛り込まれた形になっていました。

すなわち、現時点における「がん」という病気、あるいはがん患者に関する空間的な広がりを見通した計画案であったと言えます。ところが、全体目標の一つ「がんの年齢調整死亡率（75歳未満）の20%減少」については、死亡率は減少傾向であるものの、20%の達成はできませんでした。

そこで、第3期基本計画では、進んでいる患者中心の対策に加え、患者を新たに発生させない対策も重要であるとの認識より、患者を発生させないがん対策を目指すことになりました。そして、全体目標として「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実（がん予防）、②患者本位のがん医療の実現（がん医療の充実）、③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築（がんとの共生）」を挙げました。

がん予防では、喫煙率の減少、がん検診受診率の向上をはじめとしたがん対策のより一層の推進が必要としています。特に、今話題を呼んでいる受動喫煙については、協議会では「2020年までに受動喫煙をゼロにする」を満場一致で採択しました。しかし、最終的に閣議決定された計画には数値目標はなくなりました。非常に残念なことであります。6年間会長職を務めたがん対策推進協議会の存在意義は何であったのかの疑問は禁じ得ません。

このようなことを含め、今、まさに患者さんが、国民が、がん対策の主人公として参加することが求められています。本サミットがその役割を果たして「がん撲滅」に貢献されることを期待しております。

## がん撲滅サミット

### 大阪国際がんセンター総長 メッセージ

---



#### 松浦 成昭

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター総長

がん撲滅をめざしてサミットに結集しましょう！

がん撲滅サミットは医療者だけではなく、政・財・官、そして患者・家族を初めとした市民の皆様もいっしょになって、オールジャパンでがんの撲滅を目的として行われるものです。常に患者さんの視点に立って、様々な分野の最前線でごんばっている臨床家・研究者が、皆さんと忌憚のない意見交換をすることが最大の特徴です。日本人の2人に1人ががんにかかり、がんは国民病と言うべき時代になっていますが、誰もがこのサミットに結集し、実のある議論をすることにより、がんの撲滅に向けた大きな一歩にしましょう。

がんの医療は大きく変貌しました。かつては「不治の病」と言われ、治療成績は不良でした。その時代から見ると、がんの診断方法も、また手術・放射線治療・薬物治療もすべてにわたって著明な進歩が見られ、治療成績は全体として大きく改善しました。しかし、依然として高度進行がん・再発がんに対する治療手段は限られており、延命期間は延びましたが、最終的には残念な結果になることが多く、さらなる努力が必要です。

がん医療の進歩以上に、医療者と患者さんとの関係は大きく変わりました。かつては患者さんに真実を告げず、病気に関する情報もほとんど説明することはなく、一方的に医療を提供する側だけの考えで治療を行っていました。しかし時代は変わり、患者さんには細かいところまで十分説明をして、理解し納得いただいた上で治療方針もいっしょになって考えるようになりました。また、インターネットの発達もあり、様々な情報にアクセスできるようになり、それを元に患者さん自身も考え行動する時代になったと思います。

がん撲滅サミットは第一線のがんの研究者・臨床家が集いますが、主役は患者さんです。このサミットではがん医療の最前線を知るとともに、十分に議論し意見交換することが大切です。受け身ではなく、攻めの姿勢・積極的な意気込みで皆の叡智を結集することが、名前の通りがんの撲滅をめざすことにつながります。一人でも多くの人の積極的な参加をお待ちしています。

## 公益財団法人 がん研究会有明病院 名誉院長 メッセージ



### 山口 俊晴

公益財団法人 がん研究会有明病院 名誉院長

「がん撲滅サミット」も回を重ねて、今回は4回目の開催となりました。このサミットは、医療関係者はもちろん、がんに関心を寄せる一般市民、官僚、政治家、ジャーナリストなど、多くの方々のご協力と熱意により運営されてきました。今年も各界を代表する素晴らしい演者による講演が行われるほか、毎回好評な公開セカンドオピニオンも開かれます。この公開セカンドオピニオンは、日本を代表する大学、がん専門病院などから多数のエキスパートの先生の参加を得て開催されますが、つい熱いディスカッションになり、時間が足りなくなるほど盛り上がります。

この数年を振り返っても、がん治療は確実に進歩してきています。特に今年ノーベル医学生理学賞を受賞した本庶先生が開発された、免疫チェックポイント阻害薬による免疫治療は、がん撲滅の主力である外科、放射線、抗がん剤に続く、第4の新しい治療法となる可能性があります。そのほかにも長い間期待が大きかったがんのゲノム医療も、がんゲノム医療中核拠点病院や連携病院が整備され、その実用化に向けて着実に進歩しています。がん遺伝子パネル検査等も開始されており、今後の成果が期待されています。

高齢化社会を迎えた今、高齢者ががん罹患するのはある意味で自然の成り行きかもしれません。だとしたら、がん検診の受診率を上げて、少しでも早期に発見して簡単な治療で治癒させることで、よりよい老後を過ごすことも重要になってきます。さらに比較的若年者のがんを予防するために、肝炎などのウイルス感染の予防接種の推進や、胃がん予防のためのピロリ菌除菌も推進する必要があります。迫ってきた2020年のオリンピック開催にそなえ、遅れている喫煙対策を強化し、きれいな空気で諸外国の選手やゲストをお迎えしたいものです。

新しいがん医療の開発と普及、早期発見、がん予防、これらのすべてが強力に推進されるためにも、本サミット開催の意義は大きいと思います。多数の皆様の積極的な参加を期待しております。

## がん撲滅サミット

### 公益財団法人 がん研究会プレジジョン医療研究 センター長

---



#### 中村 祐輔

公益財団法人 がん研究会プレジジョン医療研究センター長  
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルディレクター  
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授

第4回の「がん撲滅サミット」開催、おめでとうございます。

ゲノム解析技術の進歩によって、がん医療は「プレジジョン医療」という大きな変換点を迎えています。予想をはるかに上回る速度で進歩が起こっているDNA解析技術を医療現場で取り入れ、それらを提供することが、現在の閉塞したがん医療環境を変えるために不可欠であると考えております。

がんを早く見つけるために、個々のがん患者の個性を正確に把握して最適で安全な治療法を提供するために、そして、新しいうねりとなっている個別化免疫療法推進のためにも、広い範囲でのゲノム情報の活用が求められています。

標準療法の壁を突き破り、患者さんに新しい可能性・希望を提供することに注力することが、われわれの責任ではないのかと考えております。

それには、患者さん、家族、医療従事者、研究者の力の結集が不可欠です。がん医療と新しい時代の幕開けを告げる号砲を皆さんと共に鳴らしたいと思います。

第4回がん撲滅サミットが歴史的なスタートラインとなることでしょう。

## 公益財団法人 日本対がん協会会長 メッセージ



### 垣添 忠生

公益財団法人 日本対がん協会会長

がん撲滅サミットが4回目を迎えた。

超高齢社会を迎えたわが国では、一生のうち2人に1人ががんとなり、年間100万人を越す人が新たにがんとなる。私が医師になった頃は、がんの5年生存率は40%以下だったが、今や65%を超えた。がんは今や治る病気になりつつある。

それなのに多くの人は、がんといわれると「頭が真白になった」といい、強い孤立感、疎外感に苦しみ、治療中も再発、転移に怯える。依然として、「がん＝死」というイメージが蔓延し氾濫しているのだ。これを何とかしたい。10年後には、がんは誰でもなる普通の病気の一つにならないものか？

この約10年間にわが国のがん対策は大きく変わった。我々が強く望んできた「がん対策基本法」が成立、施行され、がん対策推進基本計画が三次にわたって展開されてきた。「がん登録推進法」も成立、施行され、がんの実態把握が動き出した。全国に地域がん診療連携拠点病院が400余り成立し、各病院に相談支援センターが設けられた。国立がん研究センターには「がん対策情報センター」が設けられ、患者の視点を生かしながら多方面にわたる情報提供がなされるようになった。

このように、この約10年間でわが国のがん対策の形は整ったが、まだ地域間に凸凹がある。また、小児がん、希少がん、就労の問題にも光が当たるようになったが、まだ問題が多い。これらの内実をさらに固めていくと共に、長期の治療に伴う医療費の負担にあえぐ患者や、就労で厳しい局面に立たされている患者も多い、という事実に関心を配る必要がある。

がん対策、がん医療は総力戦である。医療従事者の連携、患者・家族をまき込み、学会、メディア、社会等関係諸団体の総力を結集して初めて大きな成果が期待される。

わが国が世界に誇る「国民皆保険制」を護りながら、かつ医療費の増大をできるだけ抑えながら、国民をがんから護るには、予防（特に禁煙とワクチン接種）、検診（新しい技術進歩を取り入れ、受診率を更に高める必要がある）の二面に注力することがもっとも合理的と思われる。

遺伝子診断が実診療の場へ導入され、分子標的薬や免疫療法の新たな展開、ロボット外科、粒子線治療等、医学の進歩はとどまるところを知らない。膨大な医療情報の処理にAIが医療の世界に入ってくることも確実である。

この大きな潮の変わり目に、がん撲滅サミットが開かれる意義は大きい。

正しく過去と現状を認識し、それに根ざした未来のパースペクティブを得る絶好の機会と思われる。期待している。

## がん撲滅サミット

### 国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 メッセージ

---



#### 中 釜 齊

国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長

第4回がん撲滅サミットの開催おめでとうございます。

1981年にがんが日本人の死因第一位となって以降、社会の高齢化に伴い、がん罹患者数は増え続けています。一方で、2016年度報告の全国がん診療連携拠点病院の統計では全がんの5年相対生存率（5生率）は65.8%となり、近年の医療技術の進歩により5生率も年々向上しているのも事実です。がん死亡率をさらに低減するには、がんの予防や早期診断技術の開発に加え、標準的治療の均てん化も重要な要素です。さらにこれからは、ゲノム情報に基づいて個々人に最適化されたがんゲノム医療（Precision Cancer Medicine）に大きな期待がかかっています。がん組織のゲノム解析の結果を臨床現場で活用するクリニカルシークエンス体制の構築は、希少がん・小児がん等のアンメットニーズな課題を抱えるがん種に対する医療シーズ開発の点でも大きな期待が寄せられています。現在日本では、「がんのゲノム医療」の提供に向けて体制整備が急ピッチで進められています。がんゲノム医療の「中核拠点病院」や「連携病院」等が連携して、多遺伝子パネルを用いたゲノム検査の結果に基づきより最適な治療薬の提供や臨床試験・治験が実施されることになります。

一方で、膵・胆道系がんやスキルス胃がん、脳腫瘍や血液がん等の一部のがんでは、診断の遅れや適切な治療技術の開発の遅れにより5生率も10～30%以下と多くのがん種と比較して極端に低く、早期診断や治療技術の革新による治癒率の大幅な改善を実現する必要があります。早期診断技術に関しては、これまでも多くの機器等の開発がなされてきましたが、感度・特異度に優れたリキッドバイオプシーの開発など技術面での一層の革新が求められます。治療に関しても、がんの多様性の理解とそのメカニズムの解明による新たなアプローチも必須です。がん組織は、がん細胞以外にも間質細胞や血管内皮細胞、骨髄由来の免疫抑制細胞、種々の免疫担当細胞といった複雑な細胞種で構成されています。がんの一細胞レベルの特性の解明に加え、細胞間相互作用のシュミレーションモデルによる新たな治療技術・治療戦略が期待されています。がん研究・がん医療のさらなる展開に大いに期待がかかっています。

がんのゲノム・エピゲノム情報やがん微小環境の本態解明の医療現場での利活用がもたらす医療の革新と今後の可能性に期待しつつ、全てのがん患者とそのご家族が常に希望を持ち続けることができるがん医療の提供とその研究基盤の整備の推進が重要であると考えています。

最後になりましたが、本サミットの成功を祈念しメッセージといたします。

## 西日本豪雨被災地からのメッセージ



### 村上 和春

医療法人和陽会 まび記念病院 理事長

このたび、第4回がん撲滅サミットが関係者の皆様のご尽力により「がん医療と新しい時代の幕開け」をテーマとして開かれることをお祝い申し上げます。

さて、今回の西日本豪雨のため倉敷市真備町の4分の1、1200ヘクタールが浸水、私たちのまび記念病院は4階建の建物の1階部分が完全に水没し、ライフラインを奪われ病院機能を停止せざるを得ない甚大な被害に遭いました。職員や入院患者ら120人が孤立、周辺の水没した建物に取り残されてボートにより救助され、避難されてきた住民の方々210人を合わせて、電気・水が途絶えた院内で330名が孤立いたしました。病院機能は全く断たれましたが避難されてきた方々が「病院が見えてほっとした。ありがとう」と話すのを聞き、1日でも早い病院の復興を私は誓いました。病院職員31名は暗闇の中で乏しい光を頼りに入院患者・避難の方々のケア、そして励ましを行いました。そして患者と避難住民の命を守ることができました。

そして今、私たち病院職員一丸となって病院復旧、復興に踏み出しています。

私たちは今回非常に大きなつらい・厳しい経験をしました。私たちヒトは大きな経験をしたことで「何か」を知ります。なにかとは「生きること」だと考えます。この経験を通じてどう生きていくか？この経験をその後はどうつなげていくか？ガンと生きることに通じると私は考えます。私は病院を新しく造る時「&・あんど」というロゴマークを掲げ、つながり・融合、病院と地域のつながり、職員と地域の人とのつながり・そして地域の方々の安堵感を切れ目なく保ちたいと考えました。今回の被害を経験し、改めてこのロゴマークの意味をかみしめています。

復旧・復興の道は平坦ではありません。多くの被災された方々は家を失い、思い出を失い、人生の希望をなくされた方もおられます。だからこそ単に元あった病院に戻すのではなく、今回の甚大な被害から学び、創造的なより地域に根ざした、地域の方々が望まれる新しい病院を復興させるべく私たちは前を向きます。

そして病院を復興させ、町を復興させます。医療が先頭に立ち、町おこしを行っていきます。それが私の考える新しい地域医療のあるべき姿だと今、確信を持って言えます。

最後に、この第4回がん撲滅サミットが、がん診療に関わる多くの方々の大きなつながり・融合（&・あんど）となりますようお願い申し上げます。

## がん撲滅サミット

### すい臓がんサバイバー メッセージ

---



#### 高村 僚

すい臓がんサバイバー

第4回がん撲滅サミットの開催誠におめでとうございます。

私は、2010年2月にすい臓がん手術、その後2回の再発再手術を行いました。2015年7月以降は3年以上がんと共存状態が続いています。

2010年から2年間診察して頂いた主治医には、すい臓がんが確定した時「人は1度死ぬのだから」そして「すい臓がんの予後は医者でも分からない」と言われました。当時の主治医は、日本を代表する肝胆膵外科の外科医で、この先生の言葉に感銘を受け、覚悟と今後の治療は手探りになる医学の勉強をできる限りしました。

2012年からの主治医は、外科医であると共に腫瘍学の教授で専門外の治療、例えば「丸山ワクチン」や「免疫治療」「温熱療法」についても否定はされず、紹介状と画像データ、がん組織まで直ぐに提供、他のクリニックからのデータを病院カルテに記入しています。

そんな良き主治医に恵まれ現在の私は、標準治療の抗がん剤と免疫治療を並行して行っていて、初回再発から5年半、抗がん剤の痺れには悩まされていますがQOLは保たれています。

しかし、患者会等では主治医との関係で悩まれている患者が多い事には驚いています。がんの3大治療「手術」「放射線」「抗がん剤」これが終わったら「緩和医療」という名の「がん難民」を創出しているように感じます。「免疫治療」は手術後のがん再発リスクを低減する、と言うのは世界中常識になっていますが、この国の扉はなかなか開かないようです。

全がんの5年生存率は65%に迫ろうとしています。すい臓がんは10%以下です。治りやすいがんでは「標準治療」でも事足りるのですが、難治性がんは積極的に「代替医療」を取り入れ、そのデータを「がん拠点病院」で集計するべきだと私は思います。

医師の倫理を定めたヘルシンキ宣言37項では「患者が求めた場合、証明されていない治療法も試すことができる」とあります。

医師の皆さん。どうか医学を志したころの気持ちを思い出して下さい。

是非、行政、医療者、医療機器メーカー、情報産業等が力を合わせて「がん撲滅」のため立ち向かって頂きたいと思います。

---

---

# 天国の<sup>さかた なつ の</sup>坂田捺乃さんへ贈る 追悼文

第4回がん撲滅サミット代表顧問 中見 利男



2016年10月22日に開催されたがん撲滅サミット2016のステージで1人の少女が生きることの尊さ、何かに向かってチャレンジしていくことの大事さ、そして小児がんと闘っている同世代の子供たちに向かってエールを送る予定でした。

当時、中学2年生だった坂田捺乃（さかた なつ の）さんが、その人です。平成13年3月26日生まれの坂田捺乃さんは三沢市立三沢第一中学校時代に脳幹グリオーマという小児がんを発症しました。

小児がんと闘っている彼女のことを知ったのは、妻の友人の紹介でした。

2015年7月、小児がん撲滅を願っていた彼女に、がん撲滅サミット2016への登壇をお願いすると、リハビリ中の彼女から、こんなメールが返ってきました。

「ありがとうございます。ほかの子供たちのお役に立てるのでしたら頑張ります。でも、先生、私、緊張したら笑ってしまうので、どうしようかと思えます」

読書が好きだった彼女は、その一方で皆さんもお名前を聞けばご存じの国民的なアーティストの大ファンでした。手術の前や放射線治療中、そして病室でイヤホンを通じて、彼らの音楽に耳を傾け、がんと闘う勇気と前向きに生きていくパワーをもらっていたそうです。

2015年9月に病気が再発し、その後、自宅治療で頑張っていたなっちゃんにもクリスマスが近づいてきました。ある日、ご両親が「なっちゃん、クリスマスプレゼント何が欲しい」と尋ねると、彼女は「私のものはいいから、大好きなアーティストに小児がんで苦しんでいる子供たちや家族が元気になる歌を作って欲しい」

ご両親は困惑して顔を見合せました。彼女の夢があまりにも壮大で、お店で買えるようなリクエストではなかったからです。

「それ以外に、なっちゃんが欲しいものはないの？」と聞いても、「ない。あの人たちに私と同じように苦しんでいる子供たちや支えてくれている家族が元気になる歌を作って欲しいの」

この言葉を聞いたご両親は行動を起こそうと決意したのです。多くの人たちに坂田捺乃さんの願いを伝え、少しでも彼女の夢を応援してほしいと奔走したのです。

お金では買えないプレゼント。しかも、同世代の小児がんで苦しんでいる子供たちを励ましてほしいという崇高で清らかな願い。彼女の願いだけでも、そのアーティストに届けようと皆が八方手を尽くしました。

## がん撲滅サミット

### 追悼文

---

そして2016年1月のある日。父親の篤史さんの携帯に一本の電話がかかってきました。

「突然のお電話で失礼します。坂田捺乃さんのお父さんですか？」

その声は、あのアーティストご本人だったのです。しかし坂田捺乃さんの意識は混濁し、眠ったままの状態です。

それでも篤史さんは捺乃さんの耳元に携帯電話を当ててあげました。かすかにアーティストの声が漏れてきます。

「なっちゃん！ なっちゃん！ 早く元気になってね。応援しているからね。東京の病院に入院することがあったら、必ずお見舞いに行くから頑張っってね。応援の歌はすぐにできなくても、僕らの歌の中から応援の歌になると思うものをみんなを選んで送るからね」

その後、そのアーティストとメンバーが皆で坂田捺乃さんと小児がんで闘う子供たちのために選んだ曲が送られてきました。坂田捺乃さんの夢が奇跡を起こしたのです。

我々は心から感動を覚えました。自分だけではなく同世代の小児がんで闘う人たちを励ましてあげて欲しい。そんな純粋な思いが人を動かすのだと。

しかし、その1ヶ月後の2016年2月6日、闘病の末、彼女はわずか14歳で天上の星になりました。

彼女から私に送られてきた最後のメールには『中見先生、私はしっかり勉強して女医さんになりたいと思います。女医さんになって小児がんの子どもたちをみんな治してあげたいんです』と強い決意が綴られていました。

星になった彼女の名前は、『光明院天心桜華清童女』。天女のように清らかな心で、地上で闘い続けるがん患者の皆さんを応援する少女という意味です。

私は思います。彼女の崇高な願いは小児がんを抱えて闘う子供たちだけでなく、我々に向けて託された夢だったのではないかと。

本日、闘病中だった彼女が、2015年6月9日に開催された第1回がん撲滅サミットに寄せてくれた手紙をご紹介します。

『がん撲滅サミットに参加された皆様にお手紙を差し上げるご無礼、どうかお許し下さい。また、リハビリ中のため手が思うように使えず、乱筆にて失礼いたします。

病気だと分かった日。私は怖くて怖くて涙が止まりませんでした。なぜ自分が、こんな病気になってしまったのだろうと悔しかったです。

今、退院してから検査がすごく怖いんです。病院で何度もとったMRIも大きな音がして、狭くてすごく怖いんです。また病気が大きくなって、せっかく頑張った入院生活をまたやり直すことになったら、前と同じように治療はうまくいくのか。たくさんの不安があります。

私は、脳幹部に腫瘍があります。先生からは手術では手が出せない所だと説明を受けました。だから腫瘍は小さくすることしかできません。一生この病気と離れられないのかもしれないかもしれません。すごく悔しいです。

でも、私の主治医の先生は、こう言ってくれました。

「泣いてもいいけど、泣いたら小さくなってくれるような弱い病気じゃない。だから一緒に闘おう」

私はこの言葉のおかげで、不安で泣いてしまうことがあっても、すぐに前向きになる事ができます。その先生の下には私と同じような病気の子供がたくさんいました。中には二回、三回と入院している子もいて驚きました。でも、みんな元気で明るく頑張っている姿を見て、私も前向きになれました。

私の母はずっと入院中、そばにいてくれました。いつも明るく私を笑わせてくれて元気をもらっていました。でも中には、私より小さい子供が一人で寝泊まりしていました。私はお金のことで家族のサポートのことで、よい環境で治療を受けることができた、今、思っています。

しかし、すべての子供たちがそうではありません。気持ちを強くもって治療に臨むことが、私は大事だと思います。本人や家族が治療に集中できる環境作りが大切だと思います。

治療を受ける私たちにとって、周りのサポートはすごく重要です。大切な人がそばにいてくれれば、きっと前向きな気持ちになれると思います。

私と同じような病気の子供たちの、がまんや不安な気持ちを少しでも減らしてほしいです。

私が病気になってから、中見先生や東京の病院の先生に助けられて、病気と闘うことができています。手術後に不安になったり、傷口が痛んだり、ワガママを言いたくなることもきっとあると思います。

そんな時、だれかがそばにいて、きっと力になるし、大事なことだと思います。

私は今まで、ニュースなどを何気なく見ていました。難病で海外に行くための募金を集めたりしているのを目にしました。早く治療をして、病気を治したいのにお金のことで困ってしまうのは、すごく大変だと思います。

私は自分の治療費のことなどを知りません。少し不安になったこともあったけど、父が「何も気にしないでいいんだからな」と言ってくれて、安心しました。また、弟が青森にいますが、父と祖母が面どうを見て、母はずっと私につきそってくれました。

しかし、小児難病と闘っている子供たちが日本には、まだまだたくさんいると思います。

私の小さな力で何かできることはないかと思い、今、こうして手紙を書きました。

私の願いが届きますように。

坂田 捺乃』

以下はご両親からいただいた第4回がん撲滅サミットへのメッセージです。

『娘の闘病生活が終わり2年9ヶ月余り。様々な感情と共に移り行く日々を、娘をいつも傍に感じつつ過ごしています。

代表顧問、中見先生のお力添えにより、素晴らしい医師団に出会い、病気と向き合うための心のケアから始まり、主治医と共に強い気持ちで治療に臨みました。

娘も私たちも最後まで諦めず、その後も様々な医師と治療の可能性を探り、納得した治療を受けた結果として、寂しさを抱えながらも、前向きに生きようとする今があると感じています。

本日、がん撲滅サミットに参加されている患者、ご家族様のお悩みやご心配事もまた、様々でしょう。皆様が治療に向けたヒントを得られ、共に闘って頂ける医師に巡り合われる事を願ってやみません。

娘は最後まで病気と向き合い、また、同じ境遇の子供達に心を痛めておりました。

今回のサミットが、そのようなお子様方やそのご家族にとっても、ひとつの希望となりますことを心よりお祈りいたしております。』

我々、がん撲滅サミットは星になった彼女の夢を叶えるため、小児がん撲滅に挑戦していくことをここに誓います。

## がん撲滅サミット

### 講演者プロフィール

---



いずみ ひろと  
**和泉 洋人 先生**

---

内閣総理大臣 補佐官  
内閣官房健康・医療戦略室 室長

[略歴]

- 昭和 51 年 4 月 建設省入省
- 平成 13 年 1 月 国土交通省住宅局住宅総合整備課長
- 平成 16 年 7 月 国土交通省大臣官房審議官（住宅局担当）
- 平成 19 年 7 月 国土交通省住宅局長
- 平成 24 年 10 月 内閣官房参与（国家戦略担当）
- 平成 25 年 1 月 内閣総理大臣補佐官（国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに地域活性化担当）（第 2 次安倍内閣）
- 平成 29 年 11 月 内閣総理大臣補佐官（国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当）（第 4 次安倍内閣）
- 平成 30 年 10 月 内閣総理大臣補佐官（国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当）（第 4 次安倍改造内閣）



すずき やすひろ  
**鈴木 康裕 先生**

---

厚生労働省 医務技監

[略歴]

- 昭和 59 年 慶応大学医学部卒。同年、厚生省入省。
- 平成 10 年 世界保健機関派遣
- 平成 17 年 医政局研究開発振興 課長
- 平成 21 年 厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部事務局 次長
- 平成 22 年 保険局医療 課長
- 平成 24 年 防衛省衛生監
- 平成 26 年 厚生労働省大臣官房技術総括 審議官
- 平成 27 年（併）グローバルヘルス 戦略官
- 平成 28 年 6 月 厚生労働省 保険局長
- 平成 29 年 7 月より現職

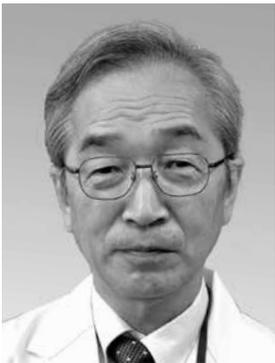


なかがま ひとし  
**中釜 斉 先生**

国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長

[略歴]

- 1956年 鹿児島県生まれ
  - 1982年 東京大学医学部卒業
  - 1990年 東京大学医学部附属病院 助手
  - 1991年 米国マサチューセッツ工科大学 がん研究センター 研究員
  - 1995年 国立がんセンター研究所 発がん研究部室長
  - 1997年 国立がんセンター研究所 生化学部長
  - 2007年 国立がんセンター研究所 副所長
  - 2010年 国立がん研究センター研究所 副所長
  - 2011年 国立がん研究センター 研究所長
  - 2012年 国立がん研究センター 理事
  - 2016年 国立がん研究センター 理事長
- 専門分野：分子腫瘍学、がんゲノム、環境発がん  
主な学会活動：日本癌学会（理事長）等



やまぐち としはる  
**山口 俊晴 先生**

公益財団法人 がん研究会有明病院 名誉院長

[略歴]

- 1973年 京都府立医科大学卒
  - 1977年 秋田大学医学部 文部教官助手
  - 1982年 アメリカテキサス大学ヒューストン校 留学（NIH 奨励研究員）
  - 1995年 京都府立医科大学 助教授（第一外科）
  - 2001年 財団法人 癌研究会附属病院 消化器外科部長
  - 2005年 財団法人 癌研究会有明病院 消化器外科部長 消化器センター長就任
  - 2008年 財団法人 癌研究会有明病院 副院長
  - 2015年7月 公益財団法人 がん研究会有明病院 病院長
  - 2018年7月 公益財団法人 がん研究会有明病院 名誉院長
- 厚労省の関係として、社会保障審議会委員（医療分科会）、先進医療評価委員会 座長、先進医療技術評価会議 座長を務める。  
また学会では、日本臨床外科学会 副会長、日本胃癌学会 名誉会員、国際胃癌学会（IGCA）理事、外科系学会保険委員会連合（外保連）名誉会長を務める。

## がん撲滅サミット

### 講演者プロフィール



すぎやま はるお  
**杉山 治夫 先生**

大阪大学大学院 医学系研究科  
特任教授

[略歴]

- 1975年 大阪大学医学部 卒業
- 1995年 大阪大学医学部 教授
- 2015年 大阪大学 名誉教授・大阪大学大学院医学系研究科 特任教授

白血病の治療に必須の WT1mRNA 定量検査を世界に先駆けて開発。血液中に、正常細胞 10 万個の中に 1 個の白血病細胞があれば、検出できるため、日本では急性骨髄性白血病と骨髄異形成症候群で保険採用。毎年 10 万件以上の検査が行われ、白血病治療の標準検査として世界に広がっている。この業績で高松宮妃癌研究基金学術賞を受賞。

また、WT1 がほとんどすべての種類のがんでのがん抗原であることを発見し、世界に先駆け、WT1 がんワクチンを開発。NCI (米国国立がん研究所) が行った世界の 75 種類のがんワクチンの有用性ランキングで第 1 位にランクされた。

WT1 がんワクチンは、白血病、脳腫瘍、膵癌、卵巣がんなどの多くのがんで有効であり、今後は、がん予防のための WT1 がん予防ワクチンの開発を目指している。



なかむら ゆうすけ  
**中村 祐輔 先生**

公益財団法人 がん研究会プレジジョン医療研究 センター長  
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルディレクター  
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授

[略歴]

- 1977年 大阪大学医学部 卒業
- 〃 大阪大学医学部 附属病院 (第 2 外科) 勤務
- 1984年 医学博士 (大阪大学)
- 1987年 ユタ大学 人類遺伝学教室 助教授
- 1989年 財団法人 癌研究会癌研究所 生化学部長
- 1994年 東京大学医科学研究所 分子病態研究施設 教授
- 1995年 東京大学医科学研究所 附属ヒトゲノム解析 センター長・教授 (~2011 年 1 月)
- 2001年 オンコセラピー・サイエンスを創設
- 2005年 理化学研究所 ゲノム医科学研究 センター長併任 (~2010 年 3 月)
- 2010年 独立行政法人 国立がん研究センター研究所 所長併任 (~2010 年 12 月)
- 2011年 内閣官房 医療イノベーション室長  
(我が国の医療イノベーションを推進するための戦略作成)
- 2012年 シカゴ大学医学部血液・腫瘍内科教授・個別化医療センター 副センター長
- 2017年 人工知能を医療に応用するフロンテオヘルスケア社の設立に尽力
- 2018年 公益財団法人 がん研究所プレジジョン医療研究 センター長  
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルディレクター  
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授



で ざ わ ま り  
**出澤 真理 先生**

東北大学大学院 医学系研究科 教授 医学博士

【略歴】

- 1989年3月 千葉大学医学部 卒業、千葉大学医学部 附属病院研修医（第三内科入局）
- 1991年4月 千葉大学大学院 医学研究科 博士課程入学
- 1995年3月 千葉大学大学院 医学研究科 博士課程修了
- 1995年4月 千葉大学医学部 解剖学第二講座 助手
- 1997年4月 千葉大学医学部 眼科学講座 助手
- 2000年4月 横浜市立大学医学部 解剖学第一講座 講師
- 2003年1月 京都大学大学院 医学研究科 機能微細形態学 助教授
- 2008年4月 東北大学大学院 医学系研究科 細胞組織学分野 教授  
現在に至る

【受賞歴】

- 1997年 井上研究奨励賞 (財)井上科学振興財団
- 1999年 日本解剖学会奨励賞 (社)日本解剖学会
- 2003年 日本顕微鏡学会奨励賞 (社)日本顕微鏡学会
- 2011年 文部科学大臣賞 文部科学省
- 2015年 Everfront Award the 8th Pan Pacific Symposium on Stem Cells and Cancer Research (PPSSC)
- 2018年 米国 National Academy of Inventors (NAI) Fellow 受賞  
Muse細胞の発見者として世界から注目を集めており、将来、医療界に  
ルネッサンスをもたらす旗手として活躍が大いに期待されている。

## がん撲滅サミット

# THE・公開セカンドオピニオン

今、東京ビッグサイトが巨大なセカンドオピニオンエリアに変わる!

～皆様のご質問にお答えするのは  
がん医療最前線に立つ 16 人の名医～

〈順不同〉

ナビゲーター

なかみ としお  
**中見 利男氏**

第4回がん撲滅サミット  
代表顧問、提唱者  
作家・ジャーナリスト

### ■皆様へのメッセージ

本日、日本が世界に誇る医師の方々と皆様とのコラボレーションで東京ビッグサイトを巨大なセカンドオピニオンエリアに変えましょう。短い時間かもしれませんが、皆様方のご質問を心よりお待ちしております。さあ、勇気を出して、その手を上に!



おおつ あつし  
**大津 敦先生**

国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 病院長  
(光免疫療法、SCURUM-JAPAN【スクラムジャパン】プロジェクト ほか)

### ■皆様へのメッセージ

がんに対するお薬での治療（薬物療法）は最近大きく進歩しています。手術や放射線治療との組み合わせで治療する患者さんを増加させるとともに、手術ができない進行した患者さんに対しても薬物療法で長期間の生存が得られるようになってきました。

遺伝子解析技術の進歩などにより、がんの組織で起こっている様々な遺伝子異常を包括的に解析できるようになり、その結果に応じて最適な治療薬を選択する個別化治療が進んでいます。

当院が中心となって産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業（SCRUM-Japan）を立ち上げ、全国 240 施設と製薬企業 16 社との共同で、肺・消化器がんの患者さんへ最適な治療薬を届けるプロジェクトを行っています。

また、昨今進歩が著しい免疫チェックポイント阻害剤などでも治療成績の向上を目指して新しいお薬の開発や併用などの様々な研究に取り組んでいます。光免疫療法につきましても 1 日も早い成果を皆さんにお届けしたいと考えております。がんに苦しむ患者さんに少しでも早くよりよい治療を届けることが出来るように日本全体で取り組んでまいります。

皆様のご質問をお待ちしております。



おおの しんじ  
**大野 真司 先生**

公益財団法人 がん研究会有明病院 副院長、乳腺センター長  
(乳がん)

■皆様へのメッセージ

がんの治療はとても進歩しています。手術技術・器具の進歩、放射線診断・治療機器の改良、新規薬剤の開発などにより高度な医療を提供できるようになり、予後（生存率）も著明に改善してきています。

特にがんの特性に応じて分子標的療法を投与するなど個別化治療が進んできました。

かつては新薬の保険承認は欧米諸国に比べて5年以上遅れる（ドラッグラグ）ことも少なくありませんでしたが、最近では国際共同試験によってドラッグラグも大きく短縮されるようになりました。

また、副作用に対する支持療法やこころのケアによって安心して安楽に治療を継続できるようになってきました。

一方で、治療のために仕事を辞めなくてはならないことがないよう就労の支援や、治療による外見の変化に対応するアピアランスなど、病気を抱える人が社会で生きていくことを支えることにも目が向けられるようになってきています。このような背景の中で皆様にはがん医療について知識を広げ、公開セカンドオピニオンを通して理解を深めていただきたいと思います。

本日はお会いできることを楽しみにしております。ご質問をどうぞ！



うえの まさし  
**上野 雅資 先生**

公益財団法人 がん研究会有明病院 大腸外科部長  
(大腸がん)

■皆様へのメッセージ

ひとくちに大腸がんと言ってもそのできた部位や進行程度、がん以外の合併症の有無、さらに患者さんの置かれた社会的環境など千差万別です。それらを十分把握したうえで、最適な治療を検討し、患者さんとともに実行し、その結果を検証するということが、私たちががん専門医の使命です。過去の治療例を比較してみると、大腸がんの手術の治療成績は2005年以降、大きく改善しており着実に成果があがっていることが実感できます。皆さん一人ひとりを大切にして大腸がんから救うことが治療の目的です。

本日は公開セカンドオピニオンで皆様のご質問をお待ちいたします。

## がん撲滅サミット



よね せ じゅん じ  
**米瀬 淳二 先生**

公益財団法人 がん研究会有明病院 院長補佐、泌尿器科部長  
(膀胱がん、腎臓がん、前立腺がん、精巣がん)

### ■皆様へのメッセージ

泌尿器科では前立腺がん、膀胱がん、腎がん、精巣がんを中心としたがんを扱っております。近年の画像診断、新規薬剤、手術機器、放射線治療機器の進歩で、こうしたがんの治療成績は向上しています。もちろん患者さんの選択肢も多くなっています。

本日はご遠慮なくご質問ください。心よりお待ちしております！



ふる せ じゅん じ  
**古瀬 純司 先生**

杏林大学医学部 内科学腫瘍内科 教授  
(腫瘍内科、抗がん剤)

### ■皆様へのメッセージ

「がん」はわが国の死亡原因第1位の難敵です。

しかし、さまざまな取り組みや医学の進歩で5年生存率も60%を超えてきました。私たちは、「がん」をよく知り、うまく付き合うことも大切です。

闘うときは闘う、無理をしないときは休む、そして、いい生活を送っていただくことを第一に考えていただきたいと思います。

社会は多様化の時代を迎え、インターネット、雑誌、テレビなど、さまざまな情報が飛び交っています。中には間違った情報も少なくありません。

正しい情報で、がんには振り回されず、その人に合った「付き合い方」を相談しましょう。今回のがん撲滅サミットで、いい情報を得ていただきたいと思います。



そえ じま けん ぞう  
**副島 研造 先生**

慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 副センター長  
トランスレーショナルリサーチ部門長、教授  
(肺がん)

### ■皆様へのメッセージ

本邦における肺がんによる死亡者数は年間7万人を超え、最も予後が悪いとされているがんの一つです。

進行肺がんでは、抗がん剤による治療が中心となりますが、従来の抗がん剤による治療成績は決して満足のものとは言えない状況でした。

しかし、近年分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など様々な新規薬剤が開発され、めざましい治療成績の改善が得られつつあります。

患者さん一人一人の、がんと共存しながら諦めず立ち向かっていく姿勢が、新たな可能性を生む力となります。



おおた けいいちろう  
**太田 惠一朗 先生**

日本医科大学 消化器外科 教授  
(食道、胃外科)

■皆様へのメッセージ

あなたを慰め、あなたの苦痛を和らげ、あなたの病を癒すことに尽くしたいと思えます。

共に歩みましょう。

どんな時も、常に前向き思考（志向）で行きましょう。

お気軽にご質問ください。



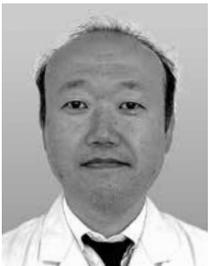
かまだ ただし  
**鎌田 正 先生**

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所  
臨床研究クラスター長  
(重粒子線)

■皆様へのメッセージ

最近、新しい放射線治療法としてご質問をいただく機会が多い粒子線治療ですが、保険診療あるいは先進医療として粒子線治療の適応となるがんの病態や治療の内容についてできるだけ正確な情報をお伝えできるようにいたします。

皆様のご質問をお待ちしております。



きよまつ ともみち  
**清松 知充 先生**

国立国際医療研究センター病院 大腸肛門外科 診療科長  
(大腸腹膜播腫ほか)

■皆様へのメッセージ

虫垂と卵巣の特殊な粘液産生腫瘍の破裂に伴う播種によって引き起こされる腹膜偽粘液腫という病態は、発症頻度も高くないために一般には広く知られておりません。しかし、悪性度が一般の大腸癌に比べて低く、それゆえに腹腔内のみで病気が広がり、抗がん剤もあまり効かないとても厄介な病態です。現時点では外科治療が唯一の根本的治療となります。ただし、欧米では広く標準治療として認められている完全減量手術（腹膜切除）・術中腹腔内温熱化学療法も、日本ではなかなか認知が進まず高額な自費での治療で行わざるを得ないのが現状です。大きな侵襲を伴う手術ではありますが、少しでも低侵襲に安全に行われるように日々取り組んでおります。

一般的な大腸癌や直腸癌の播種についてはこれと同様には治療が難しいのが現状ですが、特に腹膜偽粘液腫については適切な治療のオプションにまでたどり着けずに亡くなってしまう方もまだまだいると思われまますので少しでもこのような疾患について皆様に広く知っていただき、治療の普及が進んでいくことを願っております。

皆様に東京ビッグサイトでお会いできるのを楽しみにしております。

## がん撲滅サミット



さ の けい じ  
**佐野 圭二先生**

帝京大学医学部 外科学講座 教授  
(肝胆膵外科)

■皆様へのメッセージ

がんを撲滅できればそれは素晴らしいことだと思います。がんにかかったとき、闘うか闘わないか、闘うとしたらどのように闘うかを決めるのは皆さんです。闘いたい人の「がんと闘い」に少しでもお役にたつこと、闘わないと決めた人の「がんと闘わないことに対する不安」を少しでも減らすこと、ができればと思いつつ日々診療しています。

本日は皆様のご質問を心よりお待ちしております。



おか だ なお み  
**岡田 直美先生**

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構  
放射線医学総合研究所病院 客員研究員 ほか  
(重粒子線及び集学的治療)

■皆様へのメッセージ

「不治の病に苦しむ患者さんを救うブラックジャックのような医師になりたい」そんな学生時代の頃の想いは、形を変えて叶いつつあります。

「治らない」と言われたがん患者さんも、正確な現状把握をし、治すための戦略をたて、さまざまな治療を組み合わせること（集学的治療）で治せる時代になりました。その背景には、一つは化学療法、手術、放射線、ラジオ波焼灼術や動注塞栓療法などの局所療法など、すべての分野で医療技術は目覚ましい進歩があります。でも、一番大きな要因は、それぞれの分野のまさにブラックジャックのような先生方と連携をとることで、内科医でも、疑似的にその診療科のパフォーマンスを出すことができるようになったことです。

外科医じゃなくても優れた手術をして頂ければ、患者さんに外科の名医と同じ価値提供ができます。そして、みなさんが思っている以上に今の日本にはブラックジャックと呼べる優れた医師がたくさんいます。

ブラックジャックの本質は、「不治の病を治す医師」ではなくて、「患者さんから命を託された医師の本来あるべき姿」なのだと思います。優れた医療も患者さんとの強い信頼関係があってこそそのものだと思います。

がん医療でお悩みの皆様のご質問をお待ちしております。



こが よしひこ  
**古賀 良彦 先生**

杏林大学 名誉教授  
(心と香りのブレインヘルス)

■皆様へのメッセージ

香りや食事は脳の働きを円滑にして患者さん本人ばかりではなく、ご家族のストレスを和らげ、気持ちを癒すことができる素敵なチカラを持っています。これが香りと食事のブレインヘルスです。

本日は皆様のご質問に誠意をもってご回答いたします。



おおさわ がくじ  
**大澤 岳史 先生**

帝京大学医学部緩和医療学講座緩和医療専門医・講師  
(緩和ケア・在宅医療)

■皆様へのメッセージ

緩和ケアの目的は生活の質（QOL）の向上です。良いQOLって何でしょうか。それは「心地よい」と感じられることではないかと思っています。

たとえ重い病気になっても心地よいと感じられれば良いなと思っています。緩和医療や在宅医療にお悩みの皆様、どうぞご質問をお待ちしております。少しでもお役に立てるようお答えいたします。

スペシャルゲスト



なかむら ゆうすけ  
**中村 祐輔 先生**

公益財団法人 がん研究会プレジジョン医療研究センター長  
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター  
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授



すぎやま はるお  
**杉山 治夫 先生**

大阪大学大学院 医学系研究科 特任教授



でざわ まり  
**出澤 真理 先生**

東北大学大学院 医学系研究科 教授 医学博士

## がん撲滅サミット

### 東京宣言 2018

今日、我々は「がん撲滅」に向けた新しい行動を開始しました。今や国民の2人に1人が罹患し、3人に1人が亡くなるといわれるがんは、国民病そのものであり、このまま放置すれば国民へのダメージはもちろん、国益の損失と共に国家存続の危機さえ危惧されます。また、超高齢化社会の日本で健康長寿を構築し、生き生きと活躍できる人生を全うするために、がんと真剣に向き合い、死亡率を激減させる『日本版がん撲滅モデル』を早急に構築し、世界に発信することが、我々の責務と自覚すべきであります。かくして、年間69万人といわれるがん難民と結果としての死亡者を激減させるため、全国民が願う次世代型医療社会の構築を実現していく必要があります。

そこで、この東京宣言で、我々は以下の3つの戦略を提案します。

一つは、「がん予防と早期発見、社会構築の整備」であります。生活習慣病やがん予防の知識と意識の普及、啓発活動及びゲノム医療であるリキッドバイオプシーを含めた超早期診断技術の開発やAIホスピタルの実用化等を後押しすることで、がんの予防、早期発見、適切な治療による安全で安心できる社会。そして健康復帰できる環境整備の構築を完成させることで、「生き生きと健康に生きてゆくことができる社会」を作り上げていきます。

二つめは、「プレジジョンメディシンの導入により、患者一人一人に合わせた個別化医療とチーム医療によって充実した医療環境を完成させることです。がん医療は今や日進月歩です。低侵襲性外科手術の普及、分子標的治療、免疫療法、光免疫療法等々を集学的に網羅した「次世代型標準的治療」の展開と再生医療の応用等々で、まさにトランスレーショナル・リサーチを駆使した医療現場での展開が必要であります。即ち、がん治療革命到来の予感が満ち溢れていますが、この機会に、患者・家族や医療従事者が同じ土俵の上で、同じチームメンバーとして、相互理解のもとで展開できる医療社会の構築が基本になります。そのためにオールジャパンの体制で誠意努力し、世界のリーダーシップになることを目指そうではありませんか。

そして三つめは、がんを克服されたがんサバイバーの皆さんが、素晴らしい人生を有意義に過ごせる社会環境の整備と、小児がんをはじめとする希少がん、すい臓がん等の難治性がん、さらにAYA世代のがん患者の皆さんに、等しく希望が持てるがん治療法を研究開発し、その実用化を加速・推進していくことが必要であります。

こうした戦略を政府、官僚、財界、医療界、ジャーナリズム、患者、国民の皆さんと、まさにオールジャパン体制で真剣に取り組み、がん克服から、やがては「がん撲滅」を成し遂げられるその日まで、我々は勇気と忍耐力を以て挑戦し続けていくことが重要で、これを第4回がん撲滅サミット「東京宣言」として、ここ東京ビックサイトから発信いたします。

第4回がん撲滅サミット  
大会長 佐治 重豊



ライオンズクラブ国際協会は  
**がん撲滅**に向けた取り組みを支援します。

## We Serve

ライオンズクラブ国際協会は世界最大の奉仕団体で、200 を超える国や地域の 46,000 以上のクラブで、140 万人以上の会員が活動しています。1917 年に創設されて以来、ライオンズは飢餓対策、糖尿病の意識向上と教育、青少年育成、高齢者や障害者に対する支援、環境保護活動など、多岐にわたって活動しています。支援を必要とする人々が希望と尊厳をもって生きることができるよう、今後も人道的奉仕活動に取り組んでまいります。



**Lions Clubs International**

<http://www.lionsclubs.>

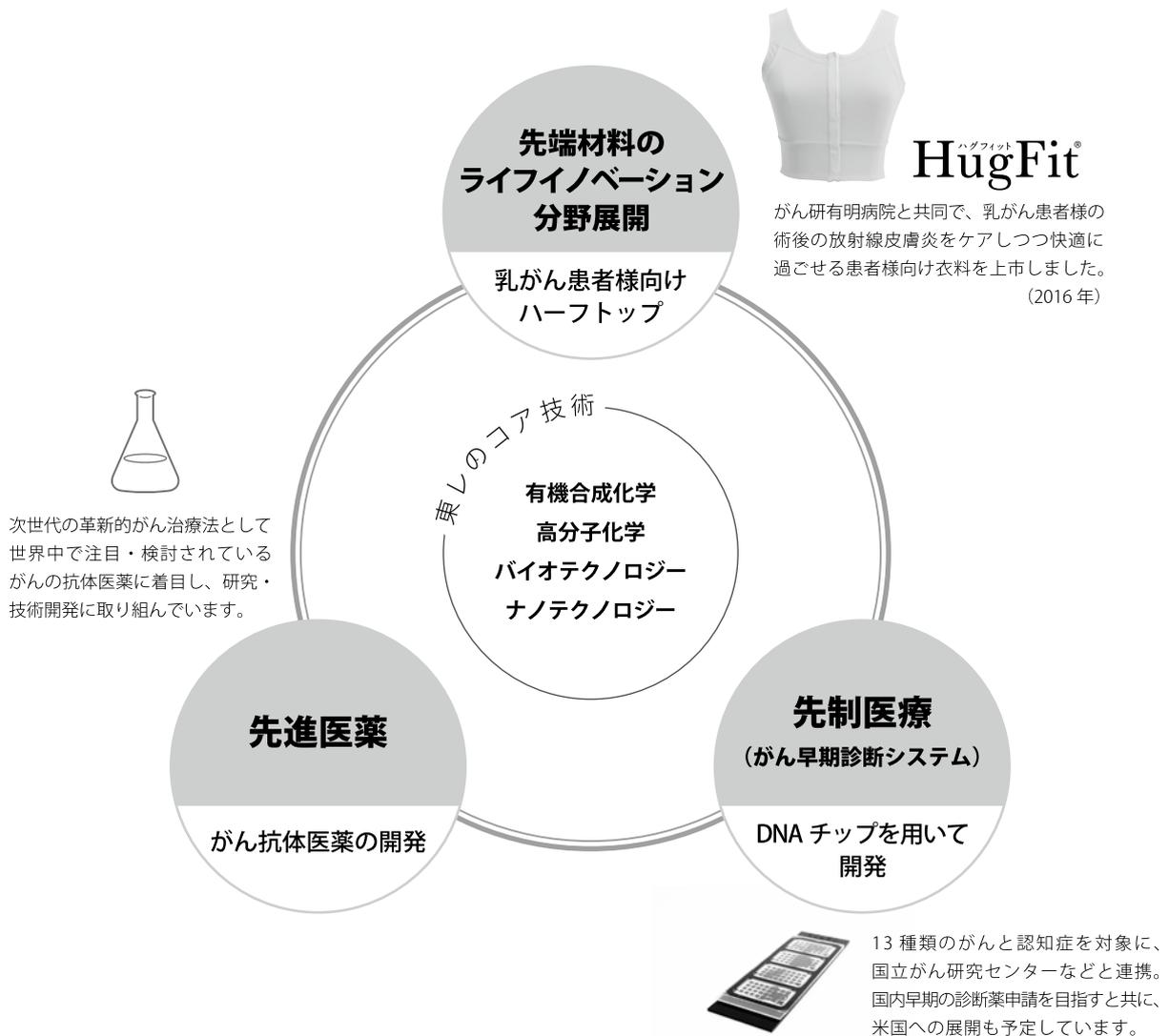
ライオンズクラブ国際協会



# TORAY

Innovation by Chemistry

## 東レによるがん領域の開拓



life  
innovation

東レのライフイノベーションへの取り組みには、2つのカテゴリーがあります。1つめは、東レのさまざまな事業分野の**先端材料**を、医薬品・医療機器用資材、先進診断装置用部材などの**ライフイノベーション分野へ展開すること**。2つめは医療分野で、**先進医薬**と、病気を早期に発見し治療してしまうという、**先制医療**がキーワードです。

<http://www.toray.co.jp/technology/toray/life/>

東レは、がん撲滅サミットを支援します



がんになっても、わたしの居場所はここだ。

いま、日本人の2人に1人ががんになる時代を、会社も、その社員も、生きている。

私たちは本当の家族ではない。それでも思う。社員は家族だ。

だから元気なときだけでなく、重い病気になったときも

自分の家族のように正面から受け止め支えていく。

「どんなことがあっても面倒みるから元気になってこい」と言っていて、

医療費も将来の学費も「心配するな」と言っていて、

なにより大切なのは、そうやって治療しながら病気に負けずに

働きつづけられる空気を職場のみんなでつくることだと思ふ。

なぜ？と聞かれたら、「あなたの居場所はここだから」と答えよう。

人は『自分の居場所はここだ』と思えたとき、大きな力を発揮する。

そして支えた周りの社員の結束は、より強くなる。

きっかけは、長い闘病の末に亡くなった、ひとりの社員の言葉だった。

「私の中では日本でいちばんの会社です」。

あのとき言われたことを、本当のものにしなければならぬと思う。

ここを、かけ値なしに働きたいのある場所に。

その一心でとりまとめた治療と仕事の両立支援策。

社員が働きがいを持たなければ、お客さまの満足もなく、

世の中の満足も生まれない。それが「伊藤忠健康憲章」。

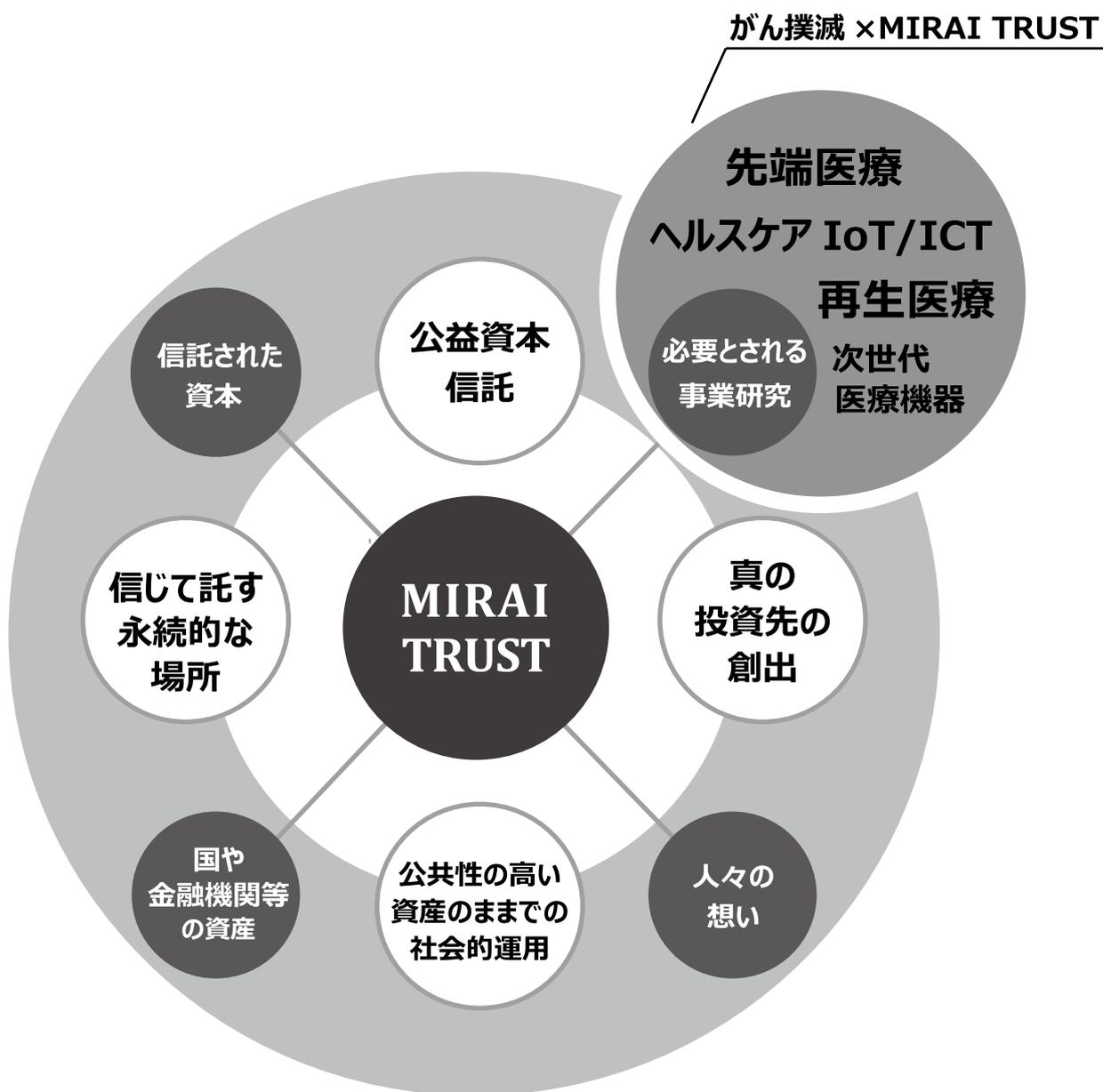
道はまだ始まったばかりだ。

ひとりの商人、無数の使命 伊藤忠商事

**ITOCHU**  
**ITOCHU**

# 未来トラストホールディングス MIRAI TRUST

“ 資本の信託による持続的研究支援 ”



未来トラストホールディングスは、「天寿を全うするその瞬間まで安心健康である」社会の実現へ向け、信託を通じた金融の設計・取り組みを研究しています。

MIRAI TRUST は、未来への医療研究を応援します

# 生命保険協会は

超高齢社会を支えていくために  
様々な取り組みを進めています。



## 相談・苦情受付

### 【生命保険相談所の運営】

生命保険相談所では、生命保険に関する相談や苦情について、お客様の疑問や悩みを整理し、解決に向けたアドバイスを行います。



## 高齢者への情報提供

### 【高齢者向け情報冊子の発行】

高齢者を対象とした、保険の加入から受取りに至るまでのあらゆる場面に関する情報や留意点をまとめた情報冊子を発行しています。



## 特殊詐欺の注意喚起

### 【被害防止啓発ポスターの作成】

オレオレ詐欺や架空請求詐欺など特殊詐欺被害防止のための啓発ポスターを作成し、注意喚起を行っています。

## 健康増進啓発活動



### 【健康寿命の延伸に向けた啓発活動】

健康寿命の延伸に向けた啓発活動を積極的に推進するために、全国各地のウォーキング大会に協賛しています。また、健康づくりに役立つ情報冊子の配布なども行い、健康増進に対する意識の向上に取り組んでいます。

生命保険協会ホームページでは、  
様々な情報を掲載しています。  
是非ご利用ください。

<http://www.seiho.or.jp>

生命保険協会

検索



# 再生医療・細胞治療の新拠点、 次世代型CPFオープンイノベーションラボ「セラボ殿町」



## ダイダンの再生医療分野への新たな挑戦

ダイダンはこれまでの技術・知識・経験・実績を生かして、再生医療・細胞治療の産業化拠点「ライフイノベーションセンター」内に、次世代型のCPF（細胞培養加工施設）を備えた「セラボ殿町」を開設しました。セラボ殿町はオープンイノベーションラボとして、再生医療の研究や実用化、それを支える機器開発やサービスを提供される方々にお集まりいただき、より良い生産プロセスを作り出していくための実証、協業の場です。研究者や関連組織・企業が少しでも早く成果を出せるよう、最適な環境を提供致します。

 **ダイダン株式会社**  
<https://www.daidan.co.jp/>



### 【セラボ殿町・再生医療事業部】

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3丁目25番22 ライフイノベーションセンター R407  
TEL: 044-276-5010 FAX: 044-280-0036 e-mail: cellab-info@daidan.co.jp

# 日本建設業連合会は 社会貢献活動を推進しています

アイサワ工業(株)	青木あすなろ建設(株)	あおみ建設(株)	(株) 浅沼組
(株) 安藤・間	伊藤組土建(株)	岩田地崎建設(株)	(株) エム・テック
(株) 大林組	(株) 大本組	(株) 奥村組	オリエンタル白石(株)
鹿島建設(株)	鹿島道路(株)	株木建設(株)	北野建設(株)
(株) 熊谷組	(株) 鴻池組	五洋建設(株)	佐藤工業(株)
三幸建設工業(株)	清水建設(株)	ショーボンド建設(株)	西武建設(株)
(株) 銭高組	大成建設(株)	大成ロテック(株)	大日本土木(株)
大豊建設(株)	高松建設(株)	(株) 竹中工務店	(株) 竹中土木
鉄建建設(株)	東亜建設工業(株)	東急建設(株)	東洋建設(株)
戸田建設(株)	飛島建設(株)	(株) ナカノフド一建設	西松建設(株)
(株) N I P P O	日本国土開発(株)	日本道路(株)	(株) 長谷工コーポレーション
(株) ピーエス三菱	(株) 福田組	(株) フジタ	(株) 不動テトラ
(株) 本間組	前田建設工業(株)	前田道路(株)	松井建設(株)
(株) 松村組	三井住友建設(株)	みらい建設工業(株)	村本建設(株)
寄神建設(株)	若築建設(株)		

日建連「社会貢献活動協議会」構成 58 社

魅力的なまちづくりの推進や  
豊かな住生活の実現を通じ、  
日本経済の持続的な成長に  
貢献してまいります。

昭和 38 年に社団法人として設立された不動産協会は、国民生活の向上と日本経済の持続的な成長に向け、土地、都市、住生活などに関わる諸問題について、様々な政策提言を行うとともに、調査・研究、社会貢献活動等に取り組んでおります。

日本経済が緩やかな回復基調にある中、今後も、国際競争力のある大都市の創造、魅力的なまちづくりの推進、豊かな住生活の実現、環境への取組み等を通じ、持続的な成長の実現に貢献してまいります。

一般社団法人 **不動産協会**

理事長 菰田 正信

# SURVIVOR SHIP

サバイバーシップ

がんと向きあってともに生きること。

〈サバイバーシップとは〉

がんを経験した方が、生活していく上で直面する課題を、  
家族や医療関係者、他の経験者と共に乗り越えていくこと。また、そのためのサポート。

大鵬薬品は、がんサバイバーシップを応援しています。



資料請求先（医薬品情報課）

大鵬薬品工業株式会社  
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27  
<https://www.taiho.co.jp/>

2017年6月作成

願いをこめた新薬を、  
世界のあなたに届けたい。

「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」

わたしたちは、新薬の開発に挑み続けます。

待ち望まれるくすりを、一日でも早くお届けするために。

**ONO** 小野薬品工業株式会社

気持ちよく快適に「いやしと安心の空間づくり」

病院・高齢者  
施設向け商品

TOTO

ひろびろ  
動作空間

手首まで  
ラクに洗える

42°

23°

腰にかかる  
筋負荷  
約40%低減

750mm

850mm

一般トイレにも  
設置しやすい

550mm

340mm

340mm

施設内の感染予防に配慮した  
手洗いしやすい高さや形状  
**スタッフ用手洗器**

8角形が使いやすいユニット  
**オクタゴンシリーズ**

公益社団法人  
日本オストミー協会推奨商品  
**コンパクト  
オストメイトパック**

ベッドの横に後付できる  
**ベッドサイド水洗トイレ**

商品のお問い合わせは TOTOお客様相談室 ☎ 0120-03-1010 受付時間 9:00~17:00(夏期休暇・年末年始を除く) <https://jp.toto.com>



**ALSO K**

ALSO Kが提供する  
介護サービスの特徴

- 多様なお客様ニーズに  
対応可能なサービス網
- ALSO K独自の健康  
増進プログラムの提供
- 全介護施設に  
警備システム導入

## ALSO Kの介護

ALSO Kは社会的ニーズが高い介護事業を新たな事業の柱として位置づけ、セキュリティ事業との融合を図りながら地域に密着したサービスを展開しています。

展開している主なサービス

- 介護付有料老人ホーム
- 居宅介護支援
- グループホーム
- 訪問医療マッサージ
- 訪問介護
- 福祉用具販売、レンタル
- デイサービス



環境事業

土木

建築

型枠

自然と社会と心の調和そして融合



株式会社 オキ・コーポレーション

〒210-0821

神奈川県川崎市川崎区殿町 2-3-15

TEL 044-280-1701 FAX 044-280-1702

URL [www.oki-cp.co.jp](http://www.oki-cp.co.jp)

**OKI**  
CORPORATION

代表取締役会長 沖山 朝紀

代表取締役社長 沖山 純子

**TANITA**

健康をはかる

あなたのそばに、タニタ



業務用・家庭用計量計測機器 製造販売

株式会社 **TANITA**

<http://www.tanita.co.jp/>



**JAPAN AIRLINES**



株式会社 エフ・アール・シー・ジャパン

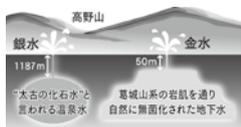


岡山県極真空手道連盟



**SMASH** 株式会社スマッシュ

「ミネラルウォーター 月のしずく」  
届けたいのは  
「いのち」とつながるお水です。



「月のしずく」は、和歌山県橋本市神野々にある天然温泉施設「ゆの里」に湧く「金水」と「銀水」と呼ばれる2つの天然水をブレンドしたミネラルウォーターです。



お問い合わせは

TEL 0736-32-2929 FAX 0120-34-2326

「ゆの里」公式ホームページ [www.spa-yunosato.com](http://www.spa-yunosato.com)

TH総合法律事務所は、新宿駅直結の新宿センタービルに所在する、弁護士10名を有する法律事務所です。

所属弁護士の高橋淳(第4回がん撲滅サミット法律顧問)および光野真純は、がん患者及び良心的ながん専門医を法的観点からサポートする業務を行っております。

## 取扱業務

- ◆ がん患者の休職および退職に関する法律問題
- ◆ 不当に高額な診療請求等についての対応
- ◆ クレイマー患者等に対する対応
- ◆ 医療法人の経営等に関する法律問題(労務問題を含む)
- ◆ がん患者及び家族に対するサポート
- ◆ その他、がん関連法務全般



第4回がん撲滅サミット 法律顧問  
弁護士・弁理士 高橋 淳  
(東京弁護士会所属)

1998年弁護士登録。  
2003年日弁連知的所有権委員会(現:日弁連知財センター)委員に就任。  
2005年経済産業省主催の「営業秘密の適正管理のあり方に関する研究会」の委員に就任。  
2005年特許庁工業所有権審議会臨時委員に就任。  
2008年日弁連知財センター委員に就任。  
2014年工業所有権審議会試験委員(弁理士試験)に就任。



**TH 総合法律事務所**

TH Law Office

〒163-0631 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル31階

TEL:03-6911-0410 FAX:03-6911-0411

# 協賛企業、団体、ご寄付者一覧（順不同）

ライオンズクラブ国際協会 様	伊藤忠商事株式会社 様
東レ株式会社 様	小野薬品工業株式会社 様
大鵬薬品工業株式会社 様	オリンパス株式会社 様
グラクソ・スミスクライン株式会社 様	株式会社タニタ 様
ダイダン株式会社 様	日本航空株式会社 様
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 様	未来トラストホールディングス株式会社
TOTO 株式会社 様	株式会社オキ・コーポレーション 様
ALSOK 総合警備保障株式会社 様	医療法人羅寿久会浅木病院 様
一般社団法人 日本建設業連合会 様	株式会社重岡 様
一般社団法人 不動産協会 様	岡山県極真空手道連盟 様
一般社団法人 生命保険協会 様	山内千里 様
一般社団法人 日本損害保険協会 様	株式会社ココ花 花枝聡 様
TH 総合法律事務所 様	第4回がん撲滅サミット参加者の皆様

他の皆様、ご支援本当にありがとうございました。

謝辞

皆様方のご支援に心より感謝申し上げます。

御来賓、御講演者の皆様をはじめ、内閣総理大臣 安倍晋三先生、内閣官房長官 菅義偉先生、厚生労働大臣 根本匠先生、一般社団法人 日本医学会連合会長 門田守人先生、国立研究開発法人 国立がん研究センター理事長 中釜齊先生、東京都知事 小池百合子先生、志方俊之先生、熊本県知事 蒲島郁夫先生 ほか、大会パンフレットにメッセージをお寄せいただいた皆様、牧野徹先生、細川恒先生、二川一男先生、ライオンズクラブ国際協会第99代国際会長、社会医療法人 厚生会木沢記念病院理事長 山田實紘先生、山形大学医学部参与 嘉山孝正先生、株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長 清水美溥様、取締役 濱田充様、未来トラストホールディングス株式会社 代表取締役 CEO 四方田良紀様、伊藤忠商事株式会社 代表取締役会長 CEO 岡藤正広様、人事・総務部企画統括室 西川大輔様、三澤寛人様、東レ株式会社 代表取締役副社長 阿部晃一様、橋本和司様、松田良夫様、曾根三郎様、ALSOK 総合警備保障株式会社 代表取締役社長 青山幸恭様、タニタコア技術研究所 名誉所長 池田義雄様、株式会社タニタ 新藤幹雄様、アライアンス・フォーラム財団 代表理事 原文人先生、丹治幹雄様、熊地叔子様、山内千里様、番匠幸一郎様、谷田部二郎様、経済団体連合会 事務総長 久保田政一様、常務理事 藤原清明様、総務本部統括会員主幹 井ノ川正明様、東智樹様、公益財団法人 経済同友会様、日本商工会議所 専務理事 石田徹様、総務部 山内清行様、一般社団法人 生命保険協会 副会長 佐々木豊成様、事務局次長 兼総務部長 宇田川俊秀様、一般社団法人 日本建設業連合会 常務執行理事 原田健様、事務局長 佐沢英紀様、江川真紀子様、一般社団法人 不動産協会 専務理事 内田要様、事務局長 森川誠様、国立国際医療研究センター理事長 國土典宏様、公益財団法人 がん研究会 常務理事 櫛山博様、総務部総務課 山崎周士様、高橋弘子様をはじめとする皆様、公益財団法人 がん研究会がん研究所 副所長 石川雄一様、社会医療法人 厚生会木沢記念病院 南條博子様、中西正江様をはじめとする皆様、公益財団法人 日本対がん協会会長 垣添忠生先生、公益財団法人 がん集学的治療研究財団会長 北島政樹先生、事務局長 金子正利様、目黒麻衣子様、公益財団法人 札幌がんセミナー理事長 小林博様、益財団法人 広島がんセミナー理事長 田原榮一様、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN 業務執行理事 北野選也様、読売新聞東京本社 解説部長 山口博弥様、医療部長 館林牧子様、東京熊本県人会の皆様、東京都福祉保健局医療政策部 計画推進担当課 千葉清隆様、渡辺昌則様、日本製薬団体連合会様、一般社団法人 日本損害保険協会 副会長 牧野治郎様、塚本真之様、宇田川友順様、YKKap 顧問 小山田誠太郎様、TOTO 株式会社特販本部長 吉田伸典様、株式会社重岡 代表取締役社長 重岡昌吾様、弁護士 高橋淳様、加藤恒也様、三好立様、堀信一様、中見理嘉様、岡山県極真空手道連盟代表 西田憲治様をはじめとする皆様、塚本恭史様、木村重明様、有路友一様、相澤直也様、越山裕基様、株式会社スマッシュ様、株式会社グラムリンク様、東京ビッグサイト様 ほか、あえてここにお名前を掲載しておりませんが、第4回がん撲滅サミット開催にあたり、ご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。引き続き第5回がん撲滅サミットをご支援いただけますと幸いです。

第4回がん撲滅サミット実行委員会一同  
＜2018年11月1日現在。敬称略・順不同＞

※本大会で使用する楽曲は、JASRAC のご理解をいただいております。

## 『第4回がん撲滅サミットフォローアップ募金受付中！』

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。次世代のためにも今こそ、我々の世代でがん撲滅に向けた挑戦をオールジャパンで開始しましょう。

只今、第4回がん撲滅サミットのフォローアップ募金の受付を開始いたしました！

皆様のご支援をお待ち申し上げております。何卒宜しくお願い申し上げます。

詳しくは第4回がん撲滅サミット HP (<http://cancer-zero.com>) をご参照ください。

第4回がん撲滅サミット実行委員会一同

# 第5回 がん撲滅サミット開催決定！

## 創設5周年記念 第5回がん撲滅サミット®

参加無料(要事前予約) <http://cancer-zero.com>

今、日本から世界に広がる  
がん撲滅への挑戦！ 克服から撲滅へ  
立ち止まるな日本！！

2019年11月17日(日)

開演 13:00【開場12:30】

会場 東京ビッグサイト 国際会議場

後援

厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、農林水産省、日本医療研究開発機構、東京都、公益社団法人 日本医師会、公益財団法人 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団、一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、公益社団法人経済同友会、日本製薬団体連合会、一般社団法人日本建設業連合会、一般社団法人不動産協会、一般社団法人生命保険協会、一般社団法人日本損害保険協会、一般社団法人全国警備業協会、一般社団法人Medical Excellence JAPAN、アライアンス・フォーラム財団、読売新聞社(申請予定)